



2022年度
第5回 清流環境作文コンクール
受賞作品集



けん
と
健人くん



さくらちゃん

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

後援／環境省 富山県教育委員会 富山県小学校長会 富山県小学校教育研究会 富山県PTA連合会



受賞作品集

神通川清流環境賞

第5回清流環境作文コンクール部門受賞作品集発刊にあたり

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 江 添 良 作

富山平野の中央を流れる清流「神通川」は、雪解け水を湛えて静かに流れています。イタイイタイ病（イ病）は患者確認から110年余り、数知れない患者が惨劇の中でお亡くなりになり、認定された生存者は現在2名となっています。戸籍をかけた裁判は4年5か月の闘いに勝利し、歓呼の声に涙した関係者も数少なくなつた現在、イ病は過去の出来事と記憶の風化が懸念されています。

完全勝訴から半世紀にわたる住民運動は、「患者救済」「汚染土壌の復元」「発生源への立入調査」で極めて大きな成果を上げ、イ病の教訓は未永く後世に引き継いでいく必要があります。

当団体は、イ病の風化を防ぎ未来に再汚染の無い環境をめざし、広く環境意識の啓発を図る目的で平成29年10月に「神通川清流環境基金」を創設いたしました。

この事業の一環として、平成30年度より「清流環境作文コンクール」を実施して今年度が第5回となりました。未来を担う子どもたちに美しいふるさとの環境や命の大切さなど、感性豊かな心をはぐくむ一助となれば幸いです。

小学校57校から寄せられた993点の応募作品を10名の審査員（氏名は別記）によって慎重に審査を重ね、入選作品51点を作品集にまとめて発刊することが出来ました。冊子は富山県内の全小学校に配布させていただきます。

コロナの感染が未だ終息しない中ではありますが、感染防止対策を取りながら3年間開催することが出来なかつた表彰式を挙行出来たことに感謝申し上げます。

後援をいただきました富山県教育委員会、富山県小学校校長会、富山県小学校教育研究会、富山県PTA連合会をはじめ、過去4回の実績が評価され今年度より環境省の後援を賜りましたことに対し衷心よりお礼申し上げます。

次年度以降も同作文コンクールを実施いたしますので、関係各位のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

審査講評

第5回清流環境作文コンクール審査委員長

元富山国際大学子ども育成学部教授 水上義行

第5回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。審査委員会を代表しまして講評をさせていただきます。

今年度の第5回作文コンクールの応募期間を令和4年7月10日から10月20日にかけて設定し、富山県内の小学校に案内させていただきました。その結果、応募いただいた学校は、57校に上がり（今までの応募校累積107校）、応募総数993名の素晴らしい作文を届けていただきました。応募いただきました児童の皆さんには、厚く御礼申し上げます。

審査委員会としては、一次審査から3次審査まで厳正な審査を行い、受賞作品を決定いたしました。審査の観点としては、次の4点を基軸にいたしました。

- (A) イタイイタイ病に関する内容・・・・・・・・清流環境歴史賞
- (B) 自然・社会体験に関する内容・・・・・・・・清流環境体験賞
- (C) 持続可能な自然・社会への科学的な視点を含む内容・・・・・・・・清流環境科学賞
- (D) がんばって応募してくれた学校・学級・・・・・・・・清流環境奨励賞

皆さんの作文からは、イタイイタイ病の悲惨な出来事を通して、社会をどのように発展させていかなければならないかを考えさせていただきました。また、確かな授業や個人研究、自然・社会体験、家族との語りなどから、科学的な知識の広がりや深まりなどが見られる作文が多く、新しい時代の担い手としてのメッセージを嬉しく思いました。

時代がどのように変わろうとも、豊かな自然や社会の持続・発展、命の尊さは誰もが責任をもって後世に伝えなければなりません。これからも、作文に書きこまれた思いや願いを大切に、家族や友だち、身の回りの小さな生き物などへのかかわりを持ちながら、継続して文章を作ってみましょう。清流環境作文コンクールは、これからも続いていきます。次回も引き続き挑戦してみてください。審査委員会は、皆さんの成長していく姿を追い求めていきたいと思えます。

終わりになりますが、第5回清流環境作文コンクールに様々なご配慮をいただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。受賞作品は、富山県内全ての小学校に配布させていただきます。教科学習や総合的な学習の時間、綴り方指導などにご活用いただき、子どもたちの表現力の向上に役立てただけであれば幸いです。

作文コンクール受賞者一覧

清流環境体験賞						清流環境歴史賞						賞名												
中学年部門			低学年部門			高学年部門			中学年部門			低学年部門	部門											
佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	賞									
窪田	山本	清水	伊藤	山口	宮城	佐々木	土地	伊橋	中西	宮川	氷見	佐藤	大橋	成瀬	小林	荒井	福田	関本	桑畑	川原	唐木	山崎	長谷部	氏名
彩人	麻央	逞雅	壮祐	恵生	翔大	木春人	雫	伶真	澤菜	寛大	拓也	美桜	佳乃子	太一	慶史朗	夕愛	愛海	達起	結衣	つくし	悠真	蒼真	紗良	小学校名
高岡市立高陵小学校	小矢部市立東部小学校	富山市立新庄小学校	高岡市立高陵小学校	富山市立宮野小学校	射水市立新湊小学校	富山大学教育学部附属小学校	富山市立西田地方小学校	高岡市立下関小学校	富山市立八幡小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山大学教育学部附属小学校	富山市立堀川小学校	富山市立熊野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立堀川小学校	高岡市立高陵小学校	富山市立宮野小学校	富山市立新庄小学校	射水市立大島小学校	富山市立宮野小学校	富山大学教育学部附属小学校	学年
4年	3年	3年	4年	1年	2年	2年	2年	2年	2年	6年	6年	6年	5年	5年	6年	6年	4年	4年	4年	4年	4年	1年	2年	題名
いつまでもホタルに会えますように	ホタルがすむ田川谷内川	海や川にゴミをふやさないために	シュノーケルで見た海	だいすきなおさんぽコース	海がんせいそう	海でたくさんあそぶぞ!!	しぜんたんけん教室に行ったこと	カマキリのいのちのリレー	ヒナが生まれたよ	風化させないイタイイタイ病を	一つ一つを大切に	イタイイタイ病はまだ続いている	イタイイタイ病資料館に行つて考えたこと	神通川の清流を取りもどした人々の闘い	真実は真実として伝える	消せない気持ち〜今を大切に〜	人々がおそれたイタイイタイ病	恐ろしいイタイイタイ病	イタイイタイ病について調べたこと	イタイイタイ病から学んだ大切なこと	当たり前ではない清流、神通川	はじめてしまったイタイイタイびよう	つらいおばあさん	ページ
58	56	54	52	50	48	46	44	42	40	36	34	32	30	28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	

清流環境科学賞												清流環境体験賞														
高学年部門						中学年部門						高学年部門			中学年部門											
佳作	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作				
山下	廣地	橘	磯邊	神宮字	杉本	棚田	室崎	宮本	松本	龜遊	谷口	菅野	小倉	黒田	谷	中居	川住	柏原	鈴村	新村	城岸	黒崎	奥村	坂田	高田	里
円嘉	皓貴	祐花	悠花	柑菜	侑亮	芽花	栄太	愛梨	寿里	瑠依	いろは	有紗	一晁	唯心	日弥木	美結	悠貴	優真	心結	美怜	有花	菜歩	翼	翔梧	巴菜	夏衣
富山市立朝日小学校	高岡市立戸出西部小学校	富山大学教育学部附属小学校	南砺市立井波小学校	富山市立堀川小学校	氷見市立比美乃江小学校	射水市立堀岡小学校	高岡市立高陵小学校	富山市立大久保小学校	射水市立歌の森小学校	高岡市立高陵小学校	高岡市立高陵小学校	高岡市立高陵小学校	高岡市立高陵小学校	砺波市立砺波北部小学校	南砺市立利賀小学校	高岡市立戸出西部小学校	富山市立宮野小学校	滑川市立田中小学校	富山市立呉羽小学校	高岡市立下関小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立芝園小学校	富山市立鵜坂小学校	富山市立堀川小学校	上市町立宮川小学校	高岡市立野村小学校
6年	5年	5年	6年	5年	6年	6年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	4年	1年	1年	1年	2年	5年	5年	6年	5年	5年	5年	3年	4年
拾いきれないゴミ	つばめが教えてくれたこと	私の大切な小川	おいしい水について考えたこと	大切な海を守るために	地球温暖化について学んだこと	地球の未来を変えるコンポスト	水と人間のくらし	海のゴミはりく地のゴミ	きれいな水を守るには	きれいな海を守るために	水を大切に使うこと	私たちの生活とダムと環境問題	大切な水を守るためにできること	自然との共生	つり	めだかについて	イモリ	おかえりアユ	川の幸と山の幸への感謝	命の大切さ	変わらない、変わってほしくない百瀬川	ポイ捨てを減らそう	生きものとのふれあいを通して	立山の外来植物除去活動を通して	みんながしあわせにくらせるように	きれいな川を守るためにされている工夫
114	112	110	108	106	104	102	100	98	96	94	92	90	88	86	84	82	80	78	74	72	70	68	66	64	62	60

清流環境奨励賞
 ◆学校賞・学級賞

学級賞			学校賞
南砺市立利賀小学校	1、2年	3、4年	5、6年
高岡市立高陵小学校	4年1組	4年2組	4年3組
射水市立金山小学校	3年1組		
富山市立中央小学校	5年1組	5年2組	5年3組
富山市立宮野小学校	5年1組	5年2組	6年1組
	3年1組	3年2組	4年1組
	1年1組	1年2組	2年1組
富山市立鵜坂小学校	5年1組	5年2組	5年3組
			5年4組
富山市立神通碧小学校	5年1組		
富山市立新保小学校	5年1組	5年2組	6年1組
富山市立熊野小学校	5年1組	5年2組	6年2組
富山市立堀川小学校	5年1組	5年3組	
富山市立宮野小学校	南砺市立利賀小学校		

◆応募学校一覧

入善町	入善町立入善小学校	
滑川市	滑川市立田中小学校	
上市町	上市町立宮川小学校	
立山町	立山町立立山中央小学校	立山町立利田小学校
富山市	富山市立大広田小学校	富山市立萩浦小学校
	富山市立藤ノ木小学校	富山市立広田小学校
	富山市立堀川南小学校	富山市立熊野小学校
	富山市立神通碧小学校	富山市立速星小学校
	富山市立宮野小学校	富山市立古里小学校
	富山市立芝園小学校	富山市立西田地方小学校
射水市	富山市立光陽小学校	富山大学教育学部附属小学校
	射水市立放生津小学校	射水市立新湊小学校
	射水市立金山小学校	射水市立歌の森小学校
	射水市立大門小学校	射水市立下村小学校
	高岡市立福岡小学校	高岡市立木津小学校
	高岡市立下関小学校	高岡市立野村小学校
氷見市	高岡市立国吉義務教育学校	高岡市立立野村小学校
	氷見市立比美乃江小学校	高岡市立立川原小学校
	高岡市立立野村小学校	高岡市立立牧野小学校
小矢部市	小矢部市立東部小学校	高岡市立立高陵小学校
砺波市	砺波市立砺波北部小学校	高岡市立戸出西部小学校
南砺市	南砺市立利賀小学校	南砺市立井波小学校

◆審査員一覧

水上 義行	元富山国際大学子ども育成学部教授
仲井 文之	元富山国際大学子ども育成学部教授
三原 茂	富山国際大学子ども育成学部教授
岩崎 直樹	富山国際大学子ども育成学部講師
宮城 信	富山大学教育学部准教授
鈴木 敬子	元射水市立作道小学校長
安元 恵子	元高岡市立東五位小学校長
牧野 宇子	元富山市立四方小学校長
城岸 毅	元南砺市立井波中学校長
河田 新子	元射水市立放生津小学校長

◆後援団体一覧

環境省 富山県教育委員会

富山県小学校校長会

富山県小学校教育研究会

富山県PTA連合会



清流環境歷史賞

低学年部門

最優秀賞

しらいおばあさん

富山大学教育学部附属小学校 二年

長谷部 紗良
はせべ さら

夏休み、ニュースを見てみると、「イタイイタイびょう」の話が、出ていました。そのニュースの中に、イタイイタイびょうになった、九十一さいのおばあさんが出ていて、わたしは、そのおばあさんの話が、とても心にのこっています。

一つ目は、「ねれないほどいたかった」という話です。わたしは、一年生のとき、うでをこっせつしました。そのときは、とてもいたくて、なみだがたくさんでました。イタイイタイびょうは、体のほねがよわくなって、たくさんこっせつしたり、いたくなったりするびょう気だそうです。わたしは、うでだけであんなにいたかったから、からだじゅうだと、とってもつらいと思いました。

二つ目は、「いつかなおると思ってがまんしていた」という話です。イタイイタイびょうがはじまって、何十年もたっているのに、まだなおらなくて、こまっている人がいるなんて、イタイイタイびょうは、それほどひどいびょう気なのだなと思いました。

三つ目は、「いつも川の水をのんでいた」という話です。わたしは、むかしは、川の水がのめるほどきれいだったことに、びっくりしました。「今も、それく

らいきれいだったらしいのにな」と、思いました。それに、きれいだと思ってしんじてのんでいた水に、じつは、体によくないものがまざっていて、それで、ずっとなおらないびよう気になってしまうなんて、とてもかわいそうだと思います。

ニユースに出ていた、あのおばあさんが、体のいたいところが、少しでもよくなって、百さいまで生きてほしいなと思いました。



低学年部門

優秀賞

はじめてしった

イタイイタイびょう

富山市立宮野小学校 一年

山崎 蒼真
やまざき そうま

うかんでは、イタイイタイびょうのえいぞうや、しゃしんをみてきました。

イタイイタイびょうは、じんづうがわからながれてきた、カドミウムがはいったみずをのんだり、おこめをたべたりした、おんなのひとがなったそうです。ぼくが、いますんでいるところでも、イタイイタイびょうがありました。

ぼくは、イタイイタイびょうということばを、きいたことがなかったので、とてもおどろきました。このびょうきになると、いきをすうと、はりが二千ぼんささるような、いたみだったことをしりました。ほねも、おれてしまったそうです。いたくて、くるしそうです、とてもかわいそうですとおもいました。

イタイイタイびょうについて、しらべました。しりよ

いま、じんづうがわは、きれいなかわになって、イ

タイイタイびようになることは、なくなりました。これからは、イタイイタイびようのないせかいで、くらしたいです。きれいなかわや、しぜんをたいせつにしていきたいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

当たり前ではない清流、神通川

射水市立大島小学校 四年

唐木 悠真

「さすが富山県はきれいな川が多いね。」

今年になって社会科の授業で富山県を流れる川を覚えることになった。生まれたところから当たり前にある川。改めて勉強してみると、富山県の水がきれいなのは、立山連峰ぼうの雪どけ水が関係しているからだと思っ

た。その中でも、ぼくが一番好きな川は神通川だ。神様が通る川と書く名前がとてもかっこよい。でも、神通川がきれいなのは当たり前ではない。イタイイタイ病という公があったからだ。

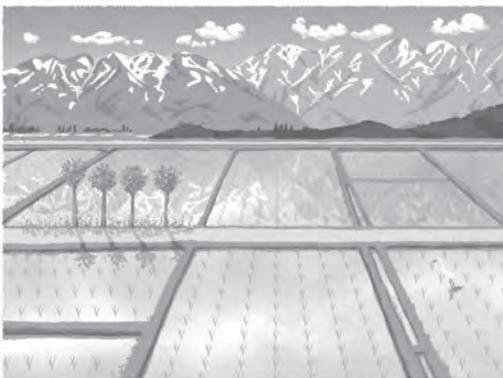
ぼくは夏休みの時間を使って、神通川やイタイイタイ病資料館に行ってみた。そこでようやくいされていた資料や映像で、とくにぼくの心に残ったことが大きく二つある。

一つは、「息をするのにも針を千本もさされるぐらいのいたみ」という言葉だった。イタイイタイ病にかかったのは、赤ちゃんをうんだことのある女性に多い。まだ、自分の子供が小さいのに、家事をすることができなかつた苦しみを写真やし料で見ることができた。その中には、イタイイタイ病は感染者本人だけでなく、家族全員が差別などで苦しむことになるを書いてあった。この点は、新型コロナウイルスと同じだなと感じ

た。

もう一つは、この病気は、人間の都合でできてしまった病気だということだ。イタイイタイ病は、山からこう石を取り出すときに出してしまった「カドミウム」が原因だと知った。当時住んでいた人たちは、川の水を飲んだり、生活用水として使ったりしていた。人間の都合で自然をこわしたり、そこに住んでいる生きものが住めなくなってしまうことが分かった。ぼくは、人間の便利さをゆう先してしまうことが問題で、これから生活していく上で、自然とうまく付き合っていくことが大切だと感じた。たとえ、今よりも少し不便になってしまったとしても、みんながちよっとずつがまんをすれば、もっとよい富山県になると思う。このように、イタイイタイ病し料館では多くのことを学んだ。この学んだことをクラスの友達にも伝えていきたい。

帰りの車の中からもう一度神通川を見た。この当たり前に見えている景色は決して当たり前ではない。きつとぼくの知らないところでたくさんの方が力をした結果だ。これからの未来の小学生も、「さすが富山県はきれいな川が多いね」と感じ続けてほしい。



* 中学年部門 *

優秀賞

イタイイタイ病から学んだ 大切なこと

富山市立新庄小学校 四年

川原 かわはら つくし

なんだか知るのが怖い。けれど、ちゃんと事実を知らないといけないと思いました。そう感じた理由は、イタイイタイ病の歴史を学びはじめてすぐに、イタイイタイ病が遠い過去の出来事だと誤解していたことに

気づいたからです。そして、イタイイタイ病は祖父母が私と同じ年齢のときに起こった出来事だとわかると、その歴史が遠くのものではなく、とても近く、身近な出来事に思えました。さらに調べていくと、公害問題がもたらした環境汚染の復旧は、つい最近までかかっていて、イタイイタイ病で苦しんでいる方が、現在でもいるという事実を知りました。

イタイイタイ病は、工場から流れ出る鉱石に含まれているカドミウムが神通川に流れ、神通川流域に住んでいる人々に起こした健康被害です。しかし、その当時の人にとって、原因はわからず、前世で悪いことをしたことの報いから生じた病気だと片づけられていました。自分の病気が何なのかわからないまま痛みを我慢することは、想像を絶する苦しみだと思います。

その後、萩野医師が原因究明に奮闘し、イタイイタイ病の原因が、三井金属鉱業神岡鉱業所から排出され

たカドミウムが原因であることが判明しました。ここから住民運動も活発となり、裁判へ進んでいきました。裁判には、四年以上もの歳月がかかったようですが、住民側は一致団結して裁判に臨み、全面勝利を収めることができました。勝利できた背景には、住民たちが長い時間をかけてたくさん証拠を積み上げたことがありました。病気の原因をつきとめ、それが公害であることを証明するために、多くの人が現地調査して、力を合わせたそうです。分からないことを分からないままにせず、原因を追求して行く、チームの団結力を感じさせるエピソードだと思いました。

私は今、イタイイタイ病の歴史を、現在、世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスと重ね合わせています。イタイイタイ病が問題となった当時から、科学が進歩したとはいえ、まだ現代でもわからない病気がたくさんあります。でも、イタイイタイ病の原因を

解明し、住民たちが運動したことで社会の認識が変わったように、分からないことを分からないままにしないという科学の力と、人々の結束力が今も求められていると思います。

何気なく見ていた神通川には、イタイイタイ病と戦い続けた多くの人の時間が流れていることを知ると、その清らかな流れは、私たちの未来を指し示しているように思いました。



* 中学年部門 *

佳作

イタイイタイ病について

調べたこと

富山市立宮野小学校 四年

桑畑^{くわはた} 結衣^{ゆい}

みなさんは、イタイイタイ病のことを知っていますか。この病気は、大正時代の頃から発生して、たくさんの人々を苦しめた病気です。

イタイイタイ病は、富山県の神通川流域で起きた、

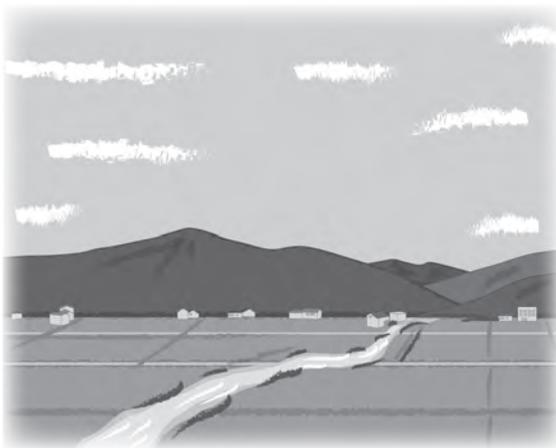
日本の四大公害病の一つで、私たちが住んでいる地域は、とくに被害がありました。イタイイタイ病は、患者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことからこの名が付いたといわれています。症状はこしやかた、ひざなどの痛みから始まって、重くなるとこっせつをくり返すようになるのが特徴です。ついには、一人では動けなくなってしまうのです。特に恐ろしいのは、ねこんでからも意識は正常なまま「イタイ、イタイ」と苦しみつづけ、食事もろくに取れずに弱って死を迎えるという点です。この恐ろしいイタイイタイ病の原因はカドミウムです。神岡鉱山から排出されたカドミウムが神通川の水や流域を汚染し、この用水や汚染された水田で作られたコメなどを食べることによって体内にカドミウムが入り込み病気を引き起こしたのです。私が住んでいる富山市婦中町で特に被害が深くで、患者の多くが女性だったそうです。出産経験者

に、多く発症するのも特徴の一つだったそうです。二〇二二年八月八日には、七年ぶりに、二〇一人目のイタイイタイ病患者が認定されています。でも、実際には、この数よりも多くの患者が苦しんだとも言われています。生存している人もごくわずかになっていますが、イタイイタイ病との戦いはまだ終わっておらず続いているのです。

私は、初めてイタイイタイ病について調べてみて、今住んでいるこの地域で、昔、とても苦しんでいた人が大ぜいいたことを知り、とてもおどろきました。でも今は、そのイタイイタイ病も少しずつなくなってきました。二度とイタイイタイ病のような被害が出ないように安心、安全なくらしをしていけるようにと思いました。

私の学校では、六年生になるとイタイイタイ病について学習します。インタビューや資料館にも行き、詳

しく話を聞く機会もあるそうです。このような病気で、二度と苦しむことがないように、しっかり勉強したいと思いました。



* 中学年部門 *

佳作

恐ろしいイタイイタイ病

高岡市立高陵小学校 四年

関本 せきもと
達起 たつき

ぼくは、おばあちゃんの家の近くで、イタイイタイ病という公害が昔おこったと聞き、とてもおどろきました。そこで、富山市のイタイイタイ病資料館へ行つて調べることにしました。

イタイイタイ病とは、神通川の上流にある神岡鉾山

から流れ出したカドミウムが原因で、じん臓に障害が出たり、骨の中がスカスカになり、骨が変形して少しのしよげきで折れてしまったりする、おそろしい病気です。もし、ぼくがそんな病気にかかってしまったらと思うと、こわくて鳥はだが立ちました。はじめは原因がわからなくて、その人が悪い行いをしたせいなどと言われ、差別をうけることが多かったそうです。その本当の原因はなんなのか、をつきとめようと、たくさんの医師や研究者が、長い時間をかけて調査や研究をくり返し、カドミウムが原因であることをかいましたのです。そんな遠くから流れ出した金ぞくが原因だなんて、ぼくには想像もできなかったので、そのときの医師や研究者の人は本当にすごいと思います。そして、原因が分かったことで、きっと病気になった人やその家族はとても喜んだだろうと思います。

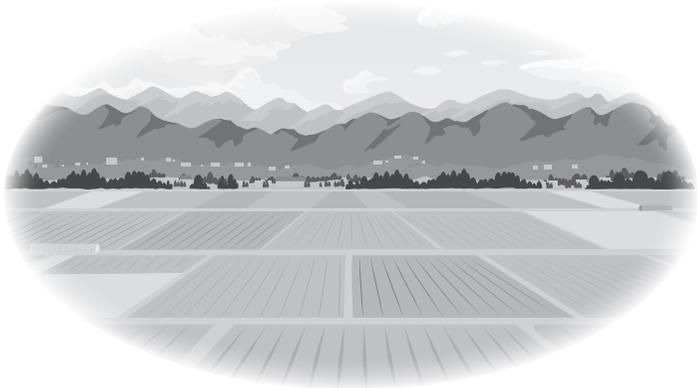
もう一つ、ぼくがびっくりしたのは、カドミウムで

汚染された農地を元に戻したことです。カドミウムでよごれてしまった土地では、そこで育つ作物にも、カドミウムがたまり、それを食べると、人体に悪い影きょうが出ます。そのため、もう一度、農家の人が米づくりができる土地にする必要がありました。その方法は、汚染土をけずりとり、さらにその下の小石がまじった土（耕ばん土）もほり上げます。そうしてできた穴に汚染土を入れ、その上に耕ばん土をしき、山からとってきたきれいな土をのせるというものです。ぼくは、土地をなおせるということとその方法にすぐくて、とてもおどろきました。でも、一度汚染された土地を元に戻すことは、とてもむずかしくて、手間がかかって大変だとしりました。

最後に、どうしたら公害などのないきれいな清流を守れるのか、自分にできることを考えてみました。ぼくは、川にごみを絶対に捨てない、そしてだれかが捨

てようとしていたら注意しようと思います。

イタイイタイ病と戦ったたくさんの人たちのように、みんなで協力し、清流を守っていけたらいいなと思います。



* 中学年部門 *

佳作

人々がおそれたイタイイタイ病

富山市立堀川小学校 四年

福田^{ふくた} 愛海^{まなみ}

七月三十一日、イタイイタイ病の患者さんが、にん定へと新聞に書いてありました。お母さんから、イタイイタイ病はにん定されるのにきびしい条件があり、にん定される前に亡くなられる人がおられるのではな
いか、と聞きました。私は、イタイイタイ病とはどん

な病気かと思ひ、イタイイタイ病資料館へ行きました。

イタイイタイ病が分かるまで、神通川の水は美しく、その水を生活水として使っていました。しかし、明治の終わりごろから、神通川の周辺だけに川が白くにごったり、イネの育ち方が悪くなったりしたそうです。神通川周辺に住む人たちは、とても不安だったと思います。そして、神通川流いきに原因不明の病気に苦しめられる人たちが、現れるようになり、人々は、さらに不安が大きくなったのではないかと思ひました。

たくさんの研究者が水を調べてみると、神通川上流にある神岡鉦山から流れ出した、カドミウムが原因で、公害だと分かったそうです。

イタイイタイ病は、はじめに、こしやかた、ひざなどがいたくなり、さらに病気が進むと、全身の様々な部分がひどくいたくなって、ほんの少しつまずいたり、

転んだりしただけでもこっ折ってしまうというこわい病気でした。かかると、治らない病気として、この地いきの住む人たちは、だれからもおそれられるようになりました。また三十五さい以上の女性に多く発症し、息をするとはりが一千本や二千本さすようにいたみ、病院へ行ってけん査をうけるときに、体をさわられると、ほねがスカスカで軽いからもろくて、かんたんに折れることがあり、身長が三〇センチメートルもちぢんでしまった人もいたそうです。自分の体がどうなっているのか分からなくて不安だったと思います。

イタイイタイ病というおそろしい病気を、くり返さないでほしいです。たくさんの方の努力で、神通川が美しく安全な流れを取りもどすことができたのは、すごいなと思いました。私たちの生活に必要な水はとても大切だと分かりました。今まで、たくさんの方たちが守ってきた美しい川や、身の周りのかんきょうを、

よごさないようにしたいです。そのためにも自分のできることで、ごみを拾ったりしていきたいです。



* 高学年部門 *

最優秀賞

消せない気持ちく今を大切にく

富山市立宮野小学校 六年

荒井 あらい
夕愛 ゆいと

「これは、足??どこ?」

私は、イタイイタイ病患者の一枚の写真を見て、そう思いました。今思うと、私が味わうことができない、辛さや苦しさがあったのだと思います。現在を生きる私は、普通に生活をしています。私たちが住む宮野が

「イタイイタイ病」をどのように克服したのかが気になり、調べてみることにしました。

イタイイタイ病は、心も体も二重に苦しめられる病気です。そのイタイイタイ病患者の救済に関わっていた方はたくさんおられたそうです。その中でも、一番患者に関わっていたのは、一人の医師でした。萩野昇医師です。萩野医師が、患者に繰り返し伝えていた言葉は、私は一生忘れることはないと思います。それは、「絶対に治します。」

という一言です。その一言は、患者の不安な心を少しでも安心させるために言っていたのかもかもしれません。しかし、きつと「絶対に治してあげたい」という強い気持ちがあったのではないかと思います。また、その一言で救われた人がたくさんいるはずです。萩野医師のすばらしさは、行動も伴っているとこころです。イタイイタイ病の原因が「カドミウム」だと分かったのは、

萩野医師の研究があったからです。萩野医師が人生をかけて研究を積み重ねた結果です。

イタイイタイ病に人生をかけた人は、萩野医師だけではありません。イタイイタイ病対策協議会初代会長小松義久さんも、人生をかけて、イタイイタイ病に関わっていました。小松義久さんは、患者救済を第一に考え、裁判を起こしました。裁判中、迷惑電話や誹謗中傷の被害にあいながらも、患者に寄りそい続けました。裁判に勝ったとき、小松さんを囲んでいた周囲の人々は、とってもうれしそうに笑っていました。しかし、小松さんは笑っていませんでした。とても、真剣な顔で遠い目をしていました。

「これだからスタート。勝ったけれど、これで終わりではない。」

と言っていたと小松義久さんの娘である小松雅子さんから聴くことができました。小松雅子さんはイタイイ

タイ病対策協議会の会長を務めておられます。父の背中を見て、この仕事が自分の使命だと思って三代目会長を引き受けたそうです。小松雅子さんは、このように言いました。

「思い出すと辛いことがあります。けれどイタイイタイ病のことを忘れてはいけません。そのため、多くの人に語り継がなければいけません。」

イタイイタイ病に関わった人たちが、一人一人違う苦しみ、辛さを味わっています。その苦しみや辛さは、二度と消すことができません。私は、このことを胸に刻み、今ある生活を大切にしていきたいです。また、このことを多くの人に伝え、後世につないでいきたいです。一人一人ができることから行動していくことが私たちにできる第一歩だと思います。

* 高学年部門 *

優秀賞

真実は真実として伝える

富山市立宮野小学校 六年

小林 こばやし 慶史朗 けいしろう

「緑が多いね。」

「田んぼがたくさんあるね。」

このように、宮野の風景を写した一枚の写真から、感じたことを話しました。その後、先生からもう一枚写真を見せてもらいました。それは、イタイイタイ病

患者の写真です。その写真は、ありえない方向に足が曲がっている患者の写真でした。それを見てぼくは、驚きました。

「どうしてこうなったのだろう？」

ぼくは、イタイイタイ病について調べてみることにしました。

イタイイタイ病について深く知るために、イタイイタイ病資料館に行きました。そこで、語り部の小松雅子さんの話を聴きました。雅子さんは、イタイイタイ病対策委員会初代会長小松義久さんの娘であり、現在、イタイイタイ病対策協議会の会長を務めておられます。ぼくが、一番心に残ったのは、誹謗中傷に関する話です。まず、患者や家族への誹謗中傷です。

「あそこの奥さん、変な病気にかかったらしいよ。」

「あの病気はうつるそうぞ。近づかないほうがいいぞ。」

「悪いことをしたから病気になったらしい。」

など、根拠のないうわさ話をしました。

病気にかかる苦しみだけでも耐え難いにもかかわらず、このような精神的な苦しみも抱えることになりました。中には、この辛さに耐えきれず、自ら死を選ぶ人もいたそうです。

さらに、誹謗中傷は患者救済のために裁判に取り組んだ小松義久さんにも及びました。無言電話や脅迫電話がたびたびかかってきたそうです。

「金のために裁判をしているのではないか？」

「有名になりたいだけだろ？」

「売れなくなったお米を家の前に積んでやろうか？」

このことをおっしゃる小松雅子さんの表情から、ぼくは、どれくらい辛い出来事だったのかと想像しました。

さらに、誹謗中傷は、イタイイタイ病治療を行っていた萩野昇医師にも及びました。

「自分の名前を売ろうとしている。」

「公害だと騒いだり脅したりしてお金を取ろうとしている。」

辛い思いをしている患者の治療をしている萩野医師に対して、売名目的の噂を広めた人たちがいたということを知り、ぼくは「許すことができない」と思いました。

ぼくは、イタイイタイ病について、深く知る前と知った後で、考え方が変わりました。最初に見た一枚の宮野の風景には、目に見えるものだけでなく、目に見えないイタイイタイ病の悲惨さが見えるようになりました。ぼくは、これから小松義久さんが、おっしゃった「真実を真実として伝える」ということを大切に、人々の心に、このイタイイタイ病の悲惨さが存在し続けてほしいと思っています。そうすれば、きっと二度とこのような公害病が起きることはなく、みんなが幸せな未来になると考えています。

* 高学年部門 *

優秀賞

神通川の清流を取りもどした 人々の闘い

富山市立熊野小学校 五年

成瀬 なるせ 太一 たいち

イタイイタイ病は、神通川の流いきで発生した公害です。今はアユつりを楽しむ人も多いきれいな川に、かつてカドミウムという鉱どくが流れていたなんて信じられませんでした。ぼくは資料館に行って、初めて

イタイイタイ病について知り、語り部さんからもお話を聞いて学びました。

神通川流いきでくらす人々は、米作りや野菜づくりだけでなく、ご飯をたいたり野菜を洗ったりと、川の水を直接そのまま利用して生活していました。川の水はとても美しく、人々になくてはならない大切なものでした。

しかし、生活に欠かせない川の水がよごれて、おそろしい病気がはやりはじめました。体中がはげしくいたみ、動いたりくしゃみをしたりするだけで骨折してしまう病気です。ただ「いたい、いたい」と、さげふことしかできなかつたそうです。その姿を見てくれた語り部さんも、本当に悲しかったと思います。かんびょうしたくても、さわるだけでいたいので、かん者さんの家族の人たちも何もしてあげられず苦しかっただろうなと思いました。ぼくは、資料館で健康な人と

かん者さんの骨の重さを比べて、かん者さんの骨が想像以上に軽かったので、とてもおどろきました。こんなにおそろしい病気になってしまっただけでもとてもつらいのに、「悪い行いをしたからだ」などと差別を受けることもあったそうです。

地元の萩野医師は、かん者さんを救うため、病気の原因を研究し、つきとめました。その後、住民たちも団結し、鉾どくを流した会社をうったえるさい判を起しました。そして、ついに住民の完全勝利を果たしました。

さい判の後、「かん者へのばいしょう」と「土じょうの復元」、そして「公害防止」が約束されました。このさい判は五十年以上前のことですが、土じょうの復元作業が、十年ほど前まで続いてたと知って、びっくりしました。それについて最近、ようやくイタイイタイ病かん者として認定された女性のことをニュースで

知りました。他にも、復元された水田の地ばんがゆるみ農作業ができない、危険だという新聞記事も読みました。清流を取りもどした後の今でも、公害との戦いはずっと続いているんだなと思いました。それに現在の川や海がよごれているとしたら、ぼくたちの生活から出ているゴミが原因にもなっています。海洋ゴミのマイクロプラスチックは、世界中で問題になっていることです。

水が、ぼくたちの生活に欠かせないのは、昔も今もこれからも変わりません。ぼくは、町内や海岸での清掃活動や山の植樹活動に、積極的に参加するようにしています。きれいな水の環境を守っていくために、これから、学ぶことやできることを続けていきたいと思っています。

* 高学年部門 *

佳 作

イタイイタイ病資料館に行つて 考えたこと

富山市立堀川小学校 五年

大橋 おおはし 佳乃子 かのこ

私は、六月の校外学習で、イタイイタイ病資料館に行きました。ビデオを見たり、図書館で調べたり、語り部さんの話を聞いたり、てんじコーナーを見学したりしてきました。

イタイイタイ病は、神通川流いきで起きた日本の四大公害病の一つで、かん者が「イタイ、イタイ」と泣きさけぶことからこの名が付いたと言われています。この病気は、大正時代ごろから発生し、岐阜県飛騨市の神岡鉱山からはい出されたカドミウムが神通川の水や流いきをおせんし、この川水やおせんされた農地に実った米などを通じて体内に入ることによって引き起こされました。

当時は、すごく苦しい思いをしている人がいるのに、まだ科学が発達していなかったり、公害という考え方がなかったりしたことから、原因不明の病気と考えられていました。悪い行いの報いとして受ける病気と言われたり、近づくとも病気がうつると言われたりして、病気にかかったことじたいがづらいのに、悪いうわさをされて、もっとくるしかつたのではないかと思いました。

また、原因がわかるまで研究にも、長い時間がかかり、原因が分かってから、国や三井金属鉱業がみとめるまで時間がかかり、さいばんにもなりました。その間、原因不明で苦しむままになっていった患者さんや、さいばんの決着がつかないままになっていった患者さんや、その家族の人のことを思うと、どんなにくやしく、悲しく、つらかっただろうと思いました。

私は、イタイイタイ病のかん者さんや、その家族が大変な思いをしてきたことがわかったので、他の県や国の人にも、このイタイイタイ病についてくわしく知ってもらって、苦しむ人が出る公害を出さないようにしないといけないと思いました。

また、資料館のてんじコーナーも印象に残りました。健康な人のほねよりも、イタイイタイ病で骨そしょう症になった人のほねが、とても軽くておどろき

ました。カドミウムの力が不思議でこわいと感じました。カドミウムは、かん電池や絵の具など生活の中でも使われているそうです。私は、絵の具を使ったとき、パレットや筆をあらっていたので心配になって、水道局の人に聞いたり、インターネットで調べたりしました。家庭のはい水は、じょう水場で処理されるので、大じょうぶなことがわかりました。

これからも、自分のしていることがかんきょうに悪くないか、考えていきたいです。今は、工場から出たよごれた水も、処理されてから川に流されているけれど、美しい水と大地をもとどりにするために、たくさんのお金と人の努力があったことをわすれず、きれいで安全な水を守っていきたいです。

* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病はまだ続いている

富山大学教育学部附属小学校 六年

佐藤 美桜

「カドミウムに汚染された田んぼは、どのように元に戻されたのだろうか？」

これは、五年生のとき、四大公害病の一つ、イタイイタイ病について学んだときに、私が抱いた疑問です。イタイイタイ病はカドミウムに汚染された神通川の水

を田んぼへ引き、そこで実ったお米を食べたり、飲み水として利用したりした人々が発症した病気です。その地域には、今も田んぼが残り、お米が作られています。そこで、どのように汚染された田んぼをきれいな田んぼに戻したのか、汚染された地域と面積、田んぼの復元方法、工事にかかった期間について、調べてみることにしました。

まず、地域と面積ですが、神通川をはさむ旧富山市、旧婦中町、旧八尾町、旧大沢野町の合わせて約一五〇〇ヘクタールという広大な土地が汚染されていたことがわかりました。この面積は、東京ドーム三二六個分と同じ広さです。想像することも難しいくらい広い地域が汚染されていたことがわかりました。

次に、復元方法ですが、工事のやり方は主に二つあります。一つは、カドミウムで汚染された土を削り取り、掘り起こした穴に埋め込んで、その上に耕ばん土

でブロックして、きれいな土を載せる「埋め込み客土工法」とよばれるものです。もう一つは、汚染された土の上に直接、耕ばん土を載せて、その上に、きれいな耕作用の土を載せる「上乘せ客土工法」という方法です。私は、土壤の復元は、汚染された土地へ何か薬品のようなものをまいて、カドミウムをなくしたのかと考えました。しかし、そのような簡単な方法ではなく、カドミウムに汚染された土を、別の場所へ移せないことから、土を掘り起こしたりする方法がとられていたことが分かり、とても大変だっただろうと思います。

さらに、土壌工事にかかった期間ですが、一九七九（昭和五十四）年から二〇一二（平成二十四）年までの計三十三年間でした。各地域ごとに、五年から二十年という長い年月をかけて、工事が進められたことが分かりました。私は、イタイイタイ病は昔の出来事で、

ずいぶん前に解決していることかと思っていました。しかし、たった十年ほど前まで、土壌工事が行われていたことを知り、大変驚きました。土壤が復元されたいくつかの地域には、記念碑が建てられています。実際に見に行くと、その裏側には、イタイイタイ病の歴史と、復元工事に関することが刻まれていて、地域の人たちが、たくさん苦労していたことが改めて分かりました。

イタイイタイ病は、現在でも、新たに認定される人がいる怖い病気です。今回、土壌復元について調べてみて、まだ終わっていない出来事なのだと、強く思いました。今後も、新聞記事やテレビのニュースなどを通して、イタイイタイ病に関心を持ち続けたいと思います。

* 高学年部門 *

佳作

一つ一つを大切に

富山市立宮野小学校 六年

氷見^{ひみ} 拓也^{たくや}

私は一枚の画像を見た。それは、イタイイタイ病患者の足の画像だった。患者の足は曲がっていた。この宮野地域に、昔イタイイタイ病があったということは知っていた。しかし、詳しくは知らなかった。このことがきっかけで、イタイイタイ病のことを調べ始めた。

イタイイタイ病は、カドミウムが体内に蓄積することでかかる病気だと分かった。私は、なぜカドミウムが流れたのが気になった。調べてみると、イタイイタイ病が流行していた頃に起きていた戦争とかかわりがあることが分かった。戦争で使用する武器に使う鉛や亜鉛を作る際、カドミウムが生まれる。戦争をしている日本は、鉛や亜鉛の製造を止めることはできない。カドミウムが流出し続けた理由が分かった。

次に気になったのは、誹謗中傷である。イタイイタイ病の症状でひどく苦しんでいた患者を、さらに苦しませていると分かった。きっと、誹謗中傷をしていた人は、未知の病気だったこともあり、不安でたまらなかったのだと思う。そして、このような混乱状態のときに、イタイイタイ病対策協議会会長の小松義久さんが立ち上がったのだと分かった。小松さんは、患者救済のために裁判をしようと思っていたが、それをよく

思わなかった人々から、いたずら電話や脅迫電話がかかってきたそうだ。また、公害病の裁判で住民側が勝訴したことは前例がなかった。しかし、小松さんは裁判に取り組み続け、一審、二審共に勝訴し、完全勝利を掴んだ。それは、

「イタイイタイ病を終わらせない。」

という強い信念を持って取り組んだ結果だと考える。小松さんは、救世主となった。裁判を終えた後も、患者や患者の家族、誹謗中傷を受けた小松さんの苦しみをもう二度と味わわせないために、毎日三時間おきに神通川の水をくみとって検査している。一年で二千七百六十回にもなる大変な作業だ。

このような方たちがいたからこそ、私たちは幸せでいられると分かった。今年の三月、イタイイタイ病対策協議会三代目会長に小松雅子さんが就任した。父の小松義久さんの意志を受け継ぎ、活動しておられる。

小松雅子さんの話の中で、心の中に残った言葉がある。それは、

「当たり前前の風景は当たり前ではない。」

という言葉だ。私は、その言葉の意味をこのように捉えた。現在、豊かに生活することができるのは、イタイイタイ病で苦しみ、そして乗り越えようとした人々がいたからだということだ。何気なく授業を受けていることでさえも、他の国からしたら当たり前ではない。だから、私たちが享受している豊かな生活の一つ一つに感謝しなければいけない。小松義久さんがいなければ、現在の豊かな生活はなかった。

あのとときの苦しみをもう二度と感じないために、イタイイタイ病のことを忘れてはいけけない。そして、イタイイタイ病のような公害病を二度と繰り返してはいけけないと思った。

* 高学年部門 *

佳作

風化させないイタイイタイ病を

富山市立宮野小学校 六年

宮川 みやがわ
寛大 かんた

ぼくは、ずっと宮野校区に住んでいます。そのため、イタイイタイ病について小さいころから知っていました。しかし、それは間違いでした。ぼくが知っていると思いでいただけでした。イタイイタイ病の学習を始めるときに、一枚の写真を見ました。患者さんが

寝ている写真です。しかも、足の骨が折れ、いろいろな方向に曲がっている写真でした。ぼくは「こんなにひどかったなんて知らなかった。もっと、イタイイタイ病について知らなければいけない。」と思い、調べることになりました。

心に残ったのは、イタイイタイ病の症状です。その症状は、大正時代には発生し、たくさんの人を苦しめました。最初は腰や肩、ひざなどから痛みが始まりました。症状が重くなると、骨折を繰り返すようになります。そして、全身に痛みを感じ、ついには動けなくなります。寝込んでからも、意識は正常なまま苦しみます。意識がはっきりしているにもかかわらず、痛みを感じ続けることは、ぼくには全く想像がつかないほど辛く悲しいことだと思います。

苦しいのは体だけではありません。誹謗中傷による被害もありました。「イタイイタイ病は伝染するぞ。」

「悪いことをしたからかかった。」と言われていたそうです。このような状況が続くと、患者は精神的にも追い詰められます。迷惑をかけるくらいなら、死んだほうがましではないかと考え、自ら命を断った人もいたそうです。

誹謗中傷の被害は、患者救済のために裁判を起こした小松さんにも及びました。「お前の家の前に売れなくなった米を積んでやろうか。」「企業に裁判なんて、どうかしている。」と脅迫電話がたびたびかかってきました。また、娘の小松雅子さんにも被害が及びました。「お前は小松義久の娘か。」と低い声で言われた言葉は今でも覚えていると教えてもらいました。

言った相手は忘れるかも知れません。しかし、言われた人はずっと忘れることはありません。ぼくは、このような誹謗中傷は理不尽で許せません。このような誹謗中傷を乗り越え、裁判では見事勝訴し、公害病裁

判において初めて被害者側が勝利しました。

裁判に勝利するまでの間、たくさんの人たちが苦しみ、たくさんの人たちががんばりました。そのおかげで、ぼくたちは現在安全な水を飲んで暮らしています。だからこそ、ぼくたちは、今ある豊かな暮らしに感謝する必要があります。また、このイタイイタイ病を風化させてはいけません。そのためにも、ぼくがこの学習で学んだ真実を真実として伝えていきたいし、誰も傷つかないように思いやりを持って生活して行きたいと思います。

ぼくは、これからふるさと宮野を守っていききたいと思います。



清流環境體驗賞

低学年部門

最優秀賞

ヒナが生まれたよ

富山市立八幡小学校 二年

中西 なかにし 滯菜 れな

わたしが赤ちゃんのとき、つばめが、ガレージに、
まい年、すをつくりにきていたそうです。二年前も、
わたしのいえに、すをつくって、たまごを生みました
が、カラスが、すに足をのせて、こわしてしまいました
た。そして、つばめのたまごは、ぜんぶおちて、われ

てしまいました。ヒナが生まれるのを、たのしみにし
ていたので、とてもかなしかったです。

きよ年は、つばめがこなかったので、もう、きてく
れないかと思っていたら、今年の五月に、きてくれ
ました。こんどは、ぜつたいに、カラスにいじわるさ
れないように、どうやったらまもれるか、おかあさん
と考えました。

つばめが、入れるぐらいの小さいネットを、すのま
わりにはりました。つばめは、上手に羽をまげて、
ネットを通っていました。

すが、かんせいしたら、たまごが五つありました。
いっしょうけんめい、あつためていたので、ヒナが生
まれました。つばめのおとうさんとおかあさんは、じゅ
んばんに、トンボをつかまえにたって、ヒナにたべさ
せてあげていました。ヒナのなきごえも、体も、どん
どん、大きくなって行って、七月になると、すの中で、

おしくらまんじゅうを、しているみたいでした。

日曜のあさ、でん線に、七羽のつばめが、とまっていた。ちゃんとはべたようで、とてもうれしかったです。なん日か、とぶれんしゅうを、しているうちに、一羽のヒナが、すの中で、うごかなくなりました。ほかのつばめは、おうえんしているように、まわりをとびまわっていました。しばらくすると、しんでいました。わたしたちは、つちの中に、うめてあげました。ほかのつばめたちは、いなくなり、とおくに、とんでいったようです。

一羽は、しんでしまったけれど、ほかのつばめは、元気にとんでくれて、うれしかったです。また、らい年も、わたしのいえに、きてほしいです。



低学年部門

優秀賞

カマキリのいのちのリレー

高岡市立下関小学校 二年

伊橋 伶真

きよ年のあき、ぼくは、いえのはたけで、おなかの大きなカマキリを見つけました。ぼくは、虫かごに入れて、そだてることにしました。しばらくすると、カマキリは、虫かごのふたのうらに、たまごを生みまし

た。たまごを生むと、おやカマキリは、しんでしまいました。その後は、そとに、虫かごをおいていましたが、虫かごに入った雪がとけて、たまごが水につかってしまいました。たまごから、カマキリの赤ちゃんが生まれてくるか、しんぱいでしたが、今年の春に、たくさんのカマキリが、ぶじに生まれました。たまごから、カマキリが、生まれるすがたを見ることができて、うれしかったです。

カマキリは、ともぐいするので、べつべつの虫かごに入れて、五ひきほど、そだててみました。その後、なん回か、だっぴをくりかえして、夏には、大きくなりました。

ある一ぴきのカマキリが、だっぴにしっぱいして、あまり、うごかなくなってしまったので、やさしく、

かわをとってあげて、そとへにがしてあげました。
すると、カマキリは、とっても元気になりました。
それから、まい日、そのカマキリをにがしたところ
へ見に行くと、同じばしょにいるので、

「おはよう、いっぱいたべて、元気に大きくなってね。」
と、こえをかけています。今そだてているカマキリ
が、たまごを生んで、元気なカマキリにそだってほ
しいです。



低学年部門

優秀賞

しぜんたんけん教室に行ったこと

富山市立西田地方小学校 二年

土地どち 栗しずく

わたしは、おとうさんと、夏のこどもしぜんたんけん教室にさんかして、ありみね森林文か村に、行きました。

このたいけんでは、つめただにゆう歩どうを、さんさくして、そこにある木やはっぱ、木のみのことを教

えてもらいました。

わたしが、一ばんおどろいたことは、歩いているとちゅうで、わたしの手の大きさほどの、どうぶつのフンを見つけたことです。おとうさんに、

「これは、きつとクマのフンだよ。」

と、教えてもらいました。

なぜおどろいたかというと、フンが、こんなにも大きいので、クマの体は、もっと大きいと、そうぞうしたからです。

ほかには、クロモジの木について、おちゃにつかう高きゆうな木だと、教えてもらいました。数日後に、おばあちゃんに、わがしを、もらったときに、クロモジのようじがついていて、山で見た木が、こうなるのだとわかりました。

ありみねこの水も、さわってみました。とうめいで、きれいで、とてもつめたかったです。まい日、あつい

けど、山はすずしくて、気もちよかったです。

わたしは、このたいけんをして、しぜんの中には、わたしたちの生かつに、ひつようなものが、たくさんあるということを学びました。これからも、しぜんをたいせつにしていきたいです。そして、またこのような、たいけん教室があったら、すすんで、さんかしたいと、思います。



低学年部門

佳作

海でたくさんあそぶぞ!!

富山大学教育学部附属小学校 二年

佐々木 春人

ある日ぼくは、海であそぶためにキャンプへ行きま
した。

じゅんぴをしていると、きゅうに、大雨がふりはじ
めました。

さむくなったので、ぼくはこう言いました。

「さむいなあ。海に入ったら、あったかくなるかもし
れない。」

と言って、早く海に入ると、きゅうに大なみがぼくに
おそってきました。

ザブンツ!!

なんとかあたりませんでした。

海にもう一ど入って、とおくまで行くと、なみは、

ジェットコースターみたいになりました。

ぼくは、こう言いました。

「うひい。さいこう!!」

ぼくはともだちをよんできました。

五人よんできました。

たくさん人ずうがいます、たのしいです。

そして、みんなですなのおしろをつくったり、すな
の上に文字を書いたり、なみからにげるゲームをし
りました。

かにを、たくさんつかまえたら、たき火で、やいて
たべるか、そのままにがすか、どちらかをえらびます
が、ぼくは、ほとんど、にがしています。

かには、よるにたくさんいます。

八時になったとき、とおくの空に、花火がうち上げ
られるのが見えました。

とってもきれいでした。

また、きれいな花火を見たいです。

今回の海のキャンプは、とってもたのしかったです。

さいこうの夏の思い出でした。



低学年部門

佳作

海がんせいそう

射水市立新湊小学校 二年

宮城みやぎ 翔大しょうた

ぼくは、よく、六とうじの海がんを、ママとさん歩
をしています。すなはまを見ると、たくさんゴミが
おちています。いつも、このゴミは、どこからながれ
てくるのか、ふしぎでした。

きよ年、海王丸パークに行ったときに、クイズにさ
んかしてきました。そのとき、町ですてられたゴミが、
みぞから川へ、そして海にながれて、魚たちが、その
ゴミをたべて、大へんなことになっていると、聞きま
した。とくに、日本ですてられた、ゴミのほとんどが、
すなはまに、ながれついていると聞いて、ビックリし
ました。

ぼくは、ほいく園のときから、海がんせいそうに、
さんかしてきました。この日も、一しゅうかん前にも、
せいそうしたけど、たくさんゴミがおちていました。
一じかんほどだけでしたが、少しだけ、きれいになり
ました。学校のクリーンさくせんをしたときも、つき

の日には、もう、ゴミがおちています。みんなの、ほんの少しの心がけで、町も海も、きれいにできるのに、これからの、ぼくたちの、小さくて大きなかだいだと思えます。



低学年部門

佳作

だいすきなおさんぽコース

富山市立宮野小学校 一年

山口 やまぐち
恵生 えみ

なつやすみまえに、ポメラニアンの、らみちゃんが、あたらしい、かぞくになりました。なまえは、おねえちゃんのなまえの、さらの「ら」と、わたしのなまえの、えみの「み」で、「らみ」になりました。らみちゃん、しろいろで、もこもこしています。みと、め

のまわりが、うすちやいろで、とてもかわいいです。だけど、いま、はが、はえかわりのとちゅうで、はが、かゆくて、なんでもかんでしまい、こまっています。わたしも、ときどきかまれますが、かむのをやめるように、がんばっておしえています。

らみちゃんは、かぞくがかえってくると、うれしくなるとびはねます。そのようすをみて、わたしうれしくて、いっしょに、あそんでいます。それから、おやつをあげると、「はやくちょうだい。」と、ぴよんぴよんと、とびはねます。そのすがたがかわいいです。

わたしは、げんきいっぱいの、らみちゃんといっしょにおさんぽにいけます。たんぼのみちには、ようすいながれていて、とんぼもとんでいて、おきいりのおさんぽコースです。かわぞいのみちも、ひろびろとしていて、とてもきもちよくて、だいすきなおさ

んぼコースです。わたしがすんでいるとやまは、かわ
がおおくて、そこからながれるようすいのみずも、と
てもきれいで、とてもよいところですよ。わたしは、と
やまがだいすきです。



* 中学年部門 *

最優秀賞

シュノーケルで見た海

高岡市立高陵小学校 四年

伊藤 壮祐
いとう そうすけ

ぼくの夏休みでいちばん思い出にのこっていることは、沖縄の海でシュノーケルをしたことです。

シュノーケルをつけると、顔を海の中につけたままずっとこきゅうができて、長く海の中を見ることができます。特に、いろいろな大きさ、色の魚たちを見る

ことができたことに感動しました。カクレクマノミや、チョウチンウオ、ウミヘビなど、富山では見られない、テレビやゲームでしか見たことがなかった魚たちに、会うことができました。カクレクマノミは、イソギンチャクにかくれていて、とても、とても小さくて、かわいかったです。

しかし、気持ちよくシュノーケルをしていたところに、海の中にはないはずのものが、とつぜん見えてしまいました。それはビーチサンダル、こわれたカゴ、魚のえさのプラスチックよう器、ゴルフボール、つり針などでした。海の中で、それは、変な色で目立っていました。魚たちは、自分の住んでいるすみかのまわりに、大きいものが落ちてくると、すみかがよごれて、イヤなんじゃないかなと思いました。人間が海をよごしていたのです。

お父さんに海の中にゴミが落ちていることを話す

と、

「ゴミは、海の生き物の成長や生活に悪いんだよ。観光に来た人たちが、一人一つゴミを拾って帰ることで、海を守る運動があるみたいだよ。」

と教えてもらいました。それから、家族みんなで海の中のゴミを拾いました。魚たちに住みやすい海になってほしいと思いました。

魚たちは、人間たちには勝てません。人間が捨てたプラスチックゴミのせいで、魚たちが死んでしまったり、住みにくくなったりしてしまいます。人間が魚たちを守ってあげなければいけないと思いました。そのため海に落ちているゴミを拾ったり、自分たちが出したゴミは持ち帰ったりするようにしようと思いました。あと、自分たちが出すゴミが、海に流れて行かないように、ゴミはきちんとゴミ箱に捨てたいと思います。きれいな海をずっと守っていきたいと思いました。



* 中学年部門 *

優秀賞

海や川にゴミをふやさないために

富山市立新庄小学校 三年

清水^{しみず} 逞雅^{たくが}

「あれっ?」

そのとき、ぼくが見つけたのは、プラスチックのフオークでした。

ぼくは夏休みに、家族とヒスイ海岸にヒスイをさがしに遊びに来ていました。

それから、空きかんや、ガラスのはへん、かたいスポンジがつぎつぎ出てきて、おどろきました。

ぼくは、生き物が大すきで、こん虫や魚の番組をよく見ています。前に見た番組で、海の中にゴミが入ったら、ゴミに魚のたまごがついて、りくに上がってしまい育たない、海がきたないと、生まれたての魚が自分からりくに上がり死んでしまう、魚を食べるケープシロカツオドリが生きられなくなる、というおそろしいげんしようがおきるとせつ明していました。ウミガメがナイロンぶくろを食べてしまい、死んでしまった写真も見ることがあります。

家族でつりに行ったとき、紙ゴミ、長ぐつ、ビニールぶくろがつかれてしまい、魚は小さな弱ったハゼ一匹だけ。しょんぼりしていると、

「あっちのきれいな川で、魚がいっぱいつれますよ。」と知らないおじさんが教えてくれました。

つれなかった所は、水が茶色くにこっていたこともあったので、教えてもらったきれいな川の所に魚をながしてあげると、元気に泳いで行きました。きれいな所だと、ハゼ二二ひき、シマダイ四ひきがつれて、魚がたくさんすんでいることが分かりました。

びっくりしたのは、そのおじさんがつってしまったゴミを、スーパーのゴミぶくろに入れつづけ、たまったら、大きな四五リットルのゴミぶくろにうつしかえて、たまったゴミをすべてもち帰るようにしていたことです。

お父さんが、
「よい所は見習おうね。」
と言いました。

大すきな生き物やぼくたちのためにも、海や川にゴミをすてないということや、ゴミを見つけたら、もって来たふくろに拾って持ち帰る、ということも心がけ

たいと思いました。

生き物がたくさん元気に住むことのできる世界になってほしいと思いました。ずっとずっとたくさんの生き物を見つづけたいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

ホタルがすむ田川谷内川^{たがわやちがわ}

小矢部市立東部小学校 三年

山本^{やまもと} 麻央^{まお}

私は小矢部市にすんでいます。小矢部市は、富山県の中でも自然ゆたかで美しい市だと思っています。

六月になると稲葉山のふもとにある田川谷内川では毎年ホタルがみられます。私は毎年地元の公民館のホタルのかんさつ会にさん加して、ホタルを見るのを楽

しみにしています。ホタルは美しい清流で生まれ育ち、わずかな時間の命の間に相手を見つけ、子そんをのこします。あの美しい光は、言葉を持たないホタル同士で結婚相手を見つけるとの大切な会話ほうほうだと先生から教えてもらいました。メスはやさしいひかりで草むらにそっとかくれていて、オスがメスより強い光を出しながらとびまわり相手を探しているようです。

今年も田川谷内川のホタルは何百匹といて、私たちに美しい光をとどけてくれました。みているとうっとりしあわせな気持ちになります。田川谷内川は、とても小さな川なので車で通りかかっても、川が流れているのさえ気がつかないようなとても小さな川です。でも六月の中ごろにはホタルたちの活動がピークをむかえ、たくさん光にあふれたとくべつな風けいにかわります。私はこの風けいをこれからも毎年みつづけて

いきたいし、小矢部川の大切な場所としてのこして
いきたいと思っています。そのためには、川をよごさ
ないこと、ホタルが住みやすい自然を守ることが大切で、
ゴミなどないようにみんなで美しくたもつことも大切
だと思います。ホタルだけを考えているわけではない
けれど、ホタルが住みやすい場所を考えていくことか
ら、ほかの生物や魚にとっても住みやすい場所になる
と思います。今、私が見ついでいないところにもつ
ながると思います。何十年先の未来にもあのホタルた
ちがたくさんとびまわる風けいが見られるように、大
切に守っていききたいです。

小矢部にはホタルたちがたくさんとびまわる美しい
清流が田川谷内川いがいにもたくさんあり、自然ゆた
かな美しい場所です。新しく道路がつくられたり、新
しいたてものができたりしてかんきょうがかわること
もみかけます。私の大切な場所はこれからもずっとそ

のままできてほしい。田川谷内川はとても小さな川だ
けど、ホタルや私たちにとって大切な場所です。



* 中学年部門 *

佳作

いつまでもホタルに
会えますように

高岡市立高陵小学校 四年

窪田くぼた 彩人あやと

毎年、六月になると、おじいちゃんにいつも電話を
しています。

「今日は何匹？いつ見に行ったらいいかな？今年はた
くさん出てる？」

ぼくのおじいちゃんの家には、ホタルがやってきま
す。毎年のホタルは、家族みんなの楽しみです。ホタ
ルがピカピカ光るすがたにいやされます。とってもき
れいです。

ぼくのおじいちゃんは、中田地区の記念物保存会の
活動をしています。中田のホタルは、県の天然記念物
に指定されていて、何十年もホタルを守る活動を続け
ています。ぼくが、きれいなホタルを毎年見られるの
は、おじいちゃんが、ホタルが住みやすいかんきょう
を守る活動を、がんばってくれているおかげです。お
じいちゃんは、ホタルのために川や、川べりをきれい
にしたり、除草剤などを使わずに草刈りをしたりして
います。ぼくが生まれるよりもずっと昔、ホタルは、
今よりも、もっとたくさんいたそうです。でも、ホタ
ルのすみかで、農薬や除草剤を使っていたので、それ
が原因となって、ホタルが少なくなってしまうまし

た。おじいちゃんたちは、また、ホタルが戻ってきてくれるように、大変でも、除草剤などの薬剤を使わずに、草刈りを始めたそうです。ホタルを大切にしたいという気持ちで、ずっと続けています。

ぼくは、おじいちゃんから、ホタルにとって、人間が一番の天敵だから、ホタルを見つけても、捕まえないように。ホタルの生態を調べて、ホタルのことを、よく理解するように。そして、ホタルはえさを食べずに、草についているつゆだけしか「飲まないんだよ」と、教わりました。ぼくは、ホタルが飲む水が、きれいであってほしいと思いました。

今のぼくにできることを考えてみました。外へ遊びに行くときは、ゴミ袋を持っていこう。そして、来年は、ホタルが出る六月よりも前に、おじいちゃんのところに行って、一緒に草刈りをしようと思います。



* 中学年部門 *

佳作

きれいな川を守るために
されている工夫

高岡市立野村小学校 四年

里^{さと} 夏衣^{かひ}

一学期、社会のじゅ業で、ぼくたちが使っている水が、どこから、どうやって、使った後はどうなるかということを学習しました。六月には、校外学習で、高岡市の二上じょう化センターを見学しました。ここで

は、地いきからのはい水をきれいにして、川に流しています。見学して、印しようにのこったことが二つありました。

一つ目は、水をきれいにするのに、び生物を使っていることです。小さい生物のことは知っていたけれど、それを「び生物」とよぶこと、それについてくわしいことは知らなかったので、少し調べてみました。

・地球には、一兆しゅ近くそんざいする。

・水のごれの、のう度によって、び生物のしゅるいがかわる。

たとえば、よごれ（エサ）が多いと「ゾウリムシ」、少ないと「ワムシ」が多くあらわれるそうです。

・水をきれにした後に出る、おでいにいるび生物は、一センチのサイコロがたに約五千〜二万。

ぼくは、水をきれいにするのに、特別なあみがついたそうちを使って、ごみだけ取りのぞくのだと思って

いたので、目に見えない、小さな小さな生物が働いていることを知って、とてもおどろきました。

二つ目は、センターの人のお話にあった、「家族で水を流す時は、水にとけない油や食べのこしを流さないようにしてくださいね」というおねがいです。帰ってから、お母さんにそのことを話すと、

「いつも油汚れがひどいフライパンやお皿は、ふき取っているよ。はいかんがつまりにくくなるし、せんざいが少しでいいから、流す水もへらせて、節水になるしね。」

と、言いました。そして、び生物が働いていること、油が苦手で、死んでしまうこともあって、水をきれいにすることが、大へんになることも話しました。お母さんは、これからも、油を流さないように気をつけるそうです。

今回の見学で思ったことは、「水を流すときの心が

けも大事なのかな」ということです。ぼくも大きくなって、料理をするようになったら、油を流さないようにして、じょう化センターの負担を、へらせるように気をつけたいと思います。



* 中学年部門 *

佳作

みんながしあわせに
くらせるように

上市町立宮川小学校 三年

高田^{たかた} 巴菜^{はな}

わたしのじいちゃんは、しぜんがいったばいの山にす
んでいます。きせつで山のけしきがかわって、きれい
でいい場所です。わたしは、しぜんの中になると、落
ち着いた気持ちになるので、じいちゃんのお家が大好

きです。

じいちゃんは、畑で野菜をそだてています。じい
ちゃんの野菜は、温かい味がして、おいしいです。で
も、一つだけ、じいちゃんになやみごとがあるそうで
す。それは、さるが野菜を食べに来ることです。もし
たら、いくら育てても、自分たちが食べられなくて、
こまっています。

他にも、じいちゃんの家のみまわりでは、くまも来
て、時には、人間をおそって、けがをさせてしまう
こともあります。

わたしは、なんで、動物たちが人間の世界まで、食
べ物をとりにくるのかを考えました。それはきっと、
動物たちがすんでいる山に、食べ物が少なくて、量が
足りないからだと思います。山に、動物たちのえさに
なる、かきやくりなどの木の実がなる木をふやしてあ
げれば、動物は、食べ物にこまらないので、山でくら

せるようになって思います。ほかに、山がきれいな所であるように、ゴミをすてないで、山のかんきょうをまもることも、大切だと思います。そしたら、動物もくらしやすくなって、人間の食べ物をとっていくこともなくなるし、人がけがをすることも、なくなると思います。わたしは、わたしの大好きな自ぜんの中で、人も動物もどちらも落ちついて、しあわせにくらせるようになってほしいです。



* 高学年部門 *

最優秀賞

立山の外来植物除去活動を通して

富山市立堀川小学校 五年

坂田さかた 翔梧しょうご

ぼくは、小学四年の時に、ジュニアナチュラリスト養成講座を受講し、現在は、ジュニアナチュラリストとして、県内の自然ほご活動に参加しています。今年の夏は、立山の弥陀ヶ原に外来植物除去活動に行きました。

まず、弥陀ヶ原の立山荘からカルデラてん望台へ、歩きながら、ナチュラリストや富山県自然ほご協会の人に、立山の在来植物と外来植物を実際に見せてもらい、説明してもらいました。昨年、養成講座を受講したときに外来植物についても勉強しました。立山で重点除去対象になっている外来植物には、ぼくの家の庭にもよく生えているスギナや、公園などによく生えているシロツメクサ、オオバコなどがあります。今までは、資料を見て勉強しているだけだったので、立山に外来植物が侵入してきているんだと、なんとなくしか考えていませんでした。しかし、今回の活動で、本当に外来植物が多く生息していることを実感しました。もともと立山には、生えていなかった外来植物たちが、今はこんなにも生えてしまっているのかと、悲しくなりました。がんばって外来植物を除去しようと決意しました。

解説の後に、はんごとに分かれて、外来植物除去活動をしました。ぼくのはんは、小中学生の八人で、外来植物除去活動を行いました。実際に作業をしてみる、外来植物を抜かずに、外来植物だけを抜く作業はむずかしかったです。外来植物のスギナに似た形をした外来植物があり、はじめは見分けがつかなかったのですが、自然ほご協会の方に教えてもらいながら抜きました。また、抜いた後の処理についても教わりました。オオバコは、抜いた後にふんでおくと、はんしょくしにくいようです。シロツメクサは、しっかり根まで抜いておくように言われました。たった三十分ほどで、ぼくのはんは、スギナ約二百七十五本、シロツメクサは約八十本、オオバコ約百三十本を刈り取りました。除去活動の報告会では、他のはんは、セイヨウタンポポやエゾノギシギシなどの外来植物もあったと報告していました。

外来植物が増えてしまうと、もともとあった在来植物たちが、外来植物に生息地をうばわれてしまい、立山の在来植物の生態系が、崩れてしまうかもしれません。そして植物の生態系が崩れてしまうと、動物や虫、鳥類などの生態系も、崩れる可能性があります。特別天然記念物であるライチョウも、立山にすめない環境になってしまうかもしれません。そのような、悲しい未来にたくありません。

今の立山の自然を守るためには、一人一人が、他の場所から外来植物を持ち込まないようにすることが大事です。また、外来植物除去活動を、定期的に行っていくことも重要だと思います。ぼくも、これからも外来植物除去活動に積極的に参加して、立山の生態系を守ることに繋がっていきたいです。

* 高学年部門 *

優秀賞

生きものとのふれあいを通して

富山市立鵜坂小学校 五年

奥村 おくむら 翼 つばさ

ぼくは、生き物が大好きです。小さいころから、虫や、川や海でつかまえた魚など、いろんなものを飼ってきました。今は、家で犬とヒヨウモントカゲモドキ、金魚を飼っています。

夏になると、必ず家族で海に行きます。その海は、

魚が見えて、岩場ではカニや小さなエビもいて、魚と
りをするのが楽しみです。小さなフグやハゼ、きれ
いな青い魚もつかまえてきて、家で海水をつくって、
飼っていたこともあります。海のほかに、山では大き
なカエルをお母さんとつかまえたことがあります。お
母さんは、「昔は、大きなカエルが田んぼとかにいた。」
と言っていたけど、ぼくは初めて見たので、すごくお
どろきました。ぼくは、何でも飼いたいと思ってしま
います。つかまえたら、うれしくて放したくありません。
だから今まで何匹も飼ってきました。そのカエル
も、大きなカゴを買って、コオロギなどのエサを買っ
てあたえました。お母さんは、飼ってみることで、い
ろいろな勉強にもなるからと、なるべくぼくの希望を
かなえてくれました。カマキリは、たまごを山でとっ
てきて、家でたまごから小さなカマキリの赤ちゃんが
出てくるのを見ました。カマキリを飼うのはとても大

変で、生きたエサしか食べないので、ちょうちょうやバツタをつかまえてきてあげていました。

おばあちゃんやお父さんはいつも、「外にはなしてあげなさい。自然の生き物を飼うのはかわいそう。」と言っていました。お母さんは、「お世話できなくなったら、すぐ、もとの場所にかえそうね」と、言っていました。大きなカエルは、飼っている間に脱皮もしました。二週間ほどで、もとの場所にかえしました。すると、すぐ山にかえっていきました。カエルも、家に帰れてうれしいんだなと、思いました。

ぼくが、生き物とふれあって学んだことは、つかまえることは楽しいし、簡単だけど、それを飼ったり、育てたりすることは、とても大変だということです。今、犬を飼っていますが、毎日の散歩、トイレの片づけ、身体を洗ってあげたり、毛並みを整えたり、やることはたくさんあります。ぼくの言うことをきかないこと

もあります。ヒョウモントカゲモドキも、毎日の水かえやきりふき、温度管理もきちんとはやらないと、死んでしまいます。金魚も水かえが大変です。

生き物は、言葉を話せないから、人間が飼うときは、ちゃんと世話をしてあげることが大切だと思いましたが。ただ好きなだけで生き物を飼うことは、無責任なことなんだと、今までの自分の行動を振り返って、思うこともたくさんあります。だから、今はむやみに飼わないことにしました。それは、ぼくが今まで生き物を飼ってみて、学べたからです。

これからも、生き物は好きだから、ずっと何かを飼いたいと思うけど、責任を持って世話をしたいと思っています。

* 高学年部門 *

優秀賞

ポイ捨てを減らそう

富山市立芝園小学校 五年

黒崎 くろさき 茉歩 まほ

六月のある日、私は、友達とよく行く「牛島公園」に遊びに行きました。そこで、いろんなところに、ゴミが散らばっていることに気づきました。私は、「環境に悪いな、汚いな」と思い、数日後に、家から持ってきた軍手、ビニール袋、トングを使って、ゴミ拾い

をしました。一緒に遊んでいた友達にも声を掛けて、少し手伝ってもらいました。結構な時間、ゴミ拾いをしたと思います。遊具の中やベンチの下など、色々なところにゴミが捨てられていて、びっくりしました。ビニール袋はパンパンになりました。ゴミと一緒に虫も、袋の中に入れてきたので大変でした。私は、ゴミを家へ持ち帰り、拾ったゴミを新聞紙の上に並べました。そして、並べたゴミを学校から借りているクロームブックで写真を撮り、ポイ捨ては良くないと言うことをみんなに伝えたくて、クロームブックにまとめました。

数日後、一緒にゴミ拾いを手伝ってくれた友達と先生に見せて、クラスみんなに発表することになりました。嬉しかったです。それから私と友達は、「ゴミゼロプロジェクト」というグループを作りました。グループ内では、どうしたらポイ捨てを減らせるのか、

意見を出し合いました。クラスみんなに発表してから、また何日か経って、私たちは、全校放送でこの取り組みを発表することになりました。その日から、公園に行くと、前よりもゴミが減っていたので、嬉しかったです。

それでも、ポイ捨てをしている人たちは、まだまだいたので、次に私たちは、公園にポスターを立てることにしました。先生からもらった大きな画用紙に、絵や文章を書きました。「ポイ捨てしないで欲しいという思いが伝わるポスターができたなあ」と思いました。でき上がったポスターを先生に見せて、しばらく学校に貼りました。ポスターを公園に立てるためには、富山市役所の「公園緑地課」に伝えなければならぬので、私はその課に電話をして、聞いてみることにしました。そしたら、担当の方へ、ポスターを見せに行くことになり、私は、市役所に行きました。その

結果、ポスターは、公園に立てられることになりました。場所は、公園内にある蒸気機関車の前です。公園に行くと、ポスターを見てくれている人たちもいて、嬉しかったです。他にも、ゴミ拾いのイベントに参加したり、友達と一緒に近所のゴミを拾ったり、ポイ捨てをしている人に注意をするなど、いろいろなことに取り組みました。

ポイ捨ては、海岸汚染や動物の命にもかかわることだと調べました。でも、ポイ捨てはすぐにはなくなりません。だから、これからも、私にできる身近な取り組みを続けて、もっとたくさんの人に、ポイ捨てが良くないことを広めていけるように、頑張りたいと思いました。

* 高学年部門 *

佳作

変わらない、変わってほしくない

百瀬川

南砺市立利賀小学校 六年

城岸じょうがん 由有花ゆううか

私の家の前には、百瀬川という、とてもきれいな川があります。私が見てきた百瀬川を、汚い川だと思っ
たことはありません。

百瀬川は、流れの速い川です。大雨が降ったとき、

大雪が降ったとき、もう暑のときも川は冷たく、速
かったです。洪水が起きたこともありません。きっと、
利賀の森林のおかげだろうと、私は思います。

春、私は、堤防の奥の百瀬川のほとりを歩いてみま
した。すると、百瀬川の近くに、とても小さな川があ
りました。その水は冷たく、すき通っていました。ま
た、山菜も自生していて、こんなに豊かな場所が、身
近にあるんだと気付くことができました。

夏、涼もうと思つて、木の下で、川の音を聞いてみ
ました。ムズムズしたので、大好きな小川まで行って、
水をさわって涼を感じることができました。そのとき
は、くつだったけれど、足を水に入りたいと思いまし
た。とても暑い夏でも、水が冷たい百瀬川を大切にし
たいと思いました。

とても暑いことについて考えたことがあります。あ
る日、妹に、「SDGsを達成できなかつたら、地球

は無くなっちゃうの？」と聞かれ、「そんなわけ無いよ。」と答えました。しかし、よく考えると、もしかしたら、本当に無くなるかもと考えました。そのためにも、自然を守ること、e c oをすることを心がけたいです。

秋、紅葉を見ていると、相変わらず冷たい百瀬川に、いつの間にかさわってしまいました。「冷たっ。」年中冷たいことを感じ直したしゅん間でした。暖かい色の紅葉と、冷たい色の小川の景色は、利賀ならではの自然の美しさだなと感じました。

冬、妹と雪遊びに行きました。いつもの百瀬川のほとりです。お米の空^{から}になった袋をそりがわりにして、遊ぶ予定でしたが、その中に小川の水を入れて、遊びました。水は冷たく、冬にさわったようで、とてもびっくりしました。その日は、時間がなく、できませんでした。雪像を作りたいです。本格的な、どべ

をぬる雪像にしたいです。

こんな楽しい冬も、問題があると考えます。それは、気温が上昇して、雪が降るのがおそくなっているということです。利賀村は、今まで、地球温暖化のひ害を受けてはいないと思っていました。しかし、雪が降るのがおそくなったので、ひ害を受けていることを実感しました。

利賀村だけでなく、世界中で、きれいな川を守り続けていきたいです。百瀬川の冷たさ、速さも、おとろえることのないよう、守り続けていきたいです。

SDGs

* 高学年部門 *

佳作

命の大切さ

高岡市立下関小学校 五年

新村^{しむら} 美怜^{みれい}

私は、小学校で、メダカの卵をけんび鏡でかく大したものを、見たことがあります。そのときは、目と血管が見えました。私は、「すごいな。」と思いました。

私の小学校では、メダカを飼い始めました。メスが卵を産み、卵から子メダカがかえりました。卵が白く

なっているものもありました。そして、私はメダカから生き物の命の大切さを教えてもらいました。それから、メダカを一生けん命育てることを意識すると、前回よりも無事に育ったものが増えていきました。

小学校でメダカ新聞を書くことになりました。メダカが死んでしまったので、その原因も調べながら、書いていきました。水かえをするときに、きれいに水そうを洗いました。そのとき、急げきなストレスで死んでしまったと考えました。心がいたみました。

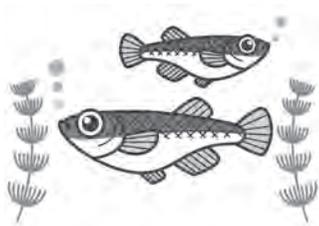
二か月後、私のはんの水そうは、子メダカだけでした。水そうの中で取りわすれていた卵から、子メダカがたくさん産まれました。私は、「子メダカが親メダカに育って卵を産んでほしい」という思いで、子メダカを一生けんめい育てていました。

今の六年生のメダカの水そうの中には、たくさんの親メダカがいます。多分、それは、「子メダカが、大

きくなつて親メダカになったのだろう。」と思いきや、五年生のメダカも六年生のように、一つの水そうで育てることになりました。私のはんの水そうには、親メダカがいなかったたので、子メダカだけを水そうに入れました。そして、五年生全員ががんばって、育てたメダカがたくさんいました。私のはんの子メダカは、五年生全員の子メダカから見分けることができませぬ。今どうしているのか、とても気になっています。私は、大きく育っていると思ひながら、子メダカの水そうを見ているときには、死んでいる子メダカも見つたりするので、ていねいに土の中にうめて、私は手をあわせています。私の子メダカではなくても、大切な命なので、これからも、死んでしまった生き物を見つけたら、きちんとまいそうしてあげたいです。そして私は、この気持ちを大切にしていきたいと思ひました。子メダカは、前に見たときよりもすくすく育つ

ています。

私は、他の生き物に対しても、きちんと世話をした、せき任をもつてまいそうをしたりしていきたいと思ひました。そして、育てるときには、「生き物にも命がある。」ということをおすれなひで、育てたいと思ひます。このメダカのお験をふまえて、いろいろな生き物の命を大切にしながら飼いたいと思ひています。



* 高学年部門 *

佳作

川の幸と山の幸への感謝

富山市立呉羽小学校 五年

鈴木^{すずむら}心結^{みゆ}

ゴールデンウィークに、家族みんなで八尾の山に行きました。

上のお兄ちゃんとお父さんは、二人で川に下りて魚つりをしていました。私とお母さんと下のお兄ちゃん
は、山菜をとっていました。上のお兄ちゃんとお父さ

んは、イワナとヤマメをねらってつりをしていましたが、ヤマメはつれませんでした。でもお兄ちゃんは四十センチメートルのイワナをつったのでとってもうれしかったです。夕ご飯の時に、みそのホイル焼きにして、みんなで食べました。とても美味しかったです。そのイワナの尾びれには、魚の歯がたがありました。お兄ちゃんは、「大きい魚がもう一ぴきいておそれたんだと思う。」と言っていました。川には、数百匹の魚がいて、魚同士で、この魚のように戦ったりしているんだと、びっくりしました。そして、私たちは、今その生き残っていた魚の命をもらって、食べているんだと思いました。

山菜をとっていた私とお母さんと下のお兄ちゃん
は、まず、ゼンマイとワラビをとりました。そのあと、皆で車で移動して、スタケをとりに行きました。と
中で、ゼンマイやワラビが生えているかもしれないの

で、お父さんがゆっくり車を運転し、二人のお兄ちゃんと私とお母さんは、左右をそれぞれ二人ずつ見て探していました。下のお兄ちゃんは車が動いているときでも、山菜を見つけてるのが得意で、すごいなと思いました。私は、ゼンマイとワラビをそれぞれ十本ほどとることができたので、うれしかったです。スタケが取れる場所までは、せの高い草の間をくぐったり、倒れた木をまたいだりしながら進みました。そして、筐にもぐって、スタケをとりました。長ズボンをはいていても足が切れたり、軍手をしていても手が切れたりしました。

その後は、タラの芽とウドをとりに行きました。お父さんと下のお兄ちゃんは、がけのところへウドをとりいき、私とお母さんと上のお兄ちゃんは、古い神社の階段のところへタラの芽をとりに行きました。ウドは、毎年とれるポイントだったのに、今年はありませんでした。

お父さんと下のお兄ちゃんが私たちのいるところへもどって来たので、みんなタラの芽を探しました。タラの芽はいっぱいありました。タラの芽は、来年のために、芽を一本残しておかなくてはけません。一本も残さず、よくばってとってあるものもあつたので、タラの芽が来年出なくなると、家族みんなでおこっていました。でも、わたしも家族もみんな、おじいちゃんから聞くまではこのことを知らなかった。山菜をとる人全員に知ってもらえたらいいなと思いました。

自然でとれたものが美味しい理由は、そのものが一生けんめい生きている命をいただいているからだと思っています。これからも、感謝する気持ちを大切に食べたいと思います。



清流環境科学賞

低学年部門

最優秀賞

おかえりアユ

滑川市立田中小学校 二年

柏原 かしはら
優真 ゆうま

早月川で、川あそびをしました。滑川市立はくぶつ
かんの人や、漁業きょうどう組合の人といっしょに、
アユをつかまえたり、いろいろな石を、さがしたりしま
した。

アユは、元気がよくて、ツルツルしていました。つ

かまえるのが、とてもたいへんでした。一匹つかまえ
て、よく見ると、体がキラキラ光ってみえました。目
もきれいでした。ぼくとアユの目が合って、なんだか、
かわいくなりました。そして、もっとアユや川のこと
を、知りたくなりました。

はくぶつかんの自然教室で、アユは、よごれた水で
は、さんそがなくて、生きられないことを教えてもら
いました。早月川の水に、葉を入れてしらべてみたら、
ちゃんと、さんそがありました。きれいな水だとわかっ
て、安心しました。

アユは、海と川を行ったり来たりして、大きくなる
そうです。だから、きれいな川をまもってあげないと、
もどって来られないんだと思います。漁業きょうどう
組合の人たちは、川のそうじをして、魚がたまごをう
んだり、かくれたりする場しよを、つくっているそう
です。

ぼくにも、できることはないかな。川にゴミをすてないこと。かぞくや友だちに、川をよごしたらダメだと教えてあげること。きれいな川をまもろうとがんばっている人がいることをわすれないこと。

早月川でひろった花崗岩を家にかざって、いつでもそれを見て、今日のことを、わすれないようにしようと思いました。

かわいくて、おいしいアユ。きれいな川をまもれば、アユが、ぼくたちのすんでいる近くの川に、パワーアップして、帰って来てくれるはずです。またアユに会えたら、

「おかえり。まっけたよ。」
と言ってあげたいです。



低学年部門

優秀賞

イモリ

富山市立宮野小学校 一年

川住 かわずみ
悠貴 ゆうき

がっこうたんけんがおわって、いえにかえったら、げんかんに、イモリがいました。おとうさんが、「かわでつかまえたよ。」と、イモリを四ひき、みせてくれました。そのうち二ひきを、いえでかうことにしました。ぼ

くは、

「オスとメスをすいそうにいたい。」

と、いいました。小さなすいそうに、水くさをいれました。なぜかというと、水くさに、たまごをうむかもしれないからです。

あるひ、オスとメスがくつついて、そのあと、メスが、水くさに、たまごをうみつけました。八こ、たまごがありました。

ずかんをよむと、イモリは、たまごをたべてしまうと、かいてありました。だから、あたらしい水そうをかって、そこにじやりと、水くさと、ろかそうちと、レンガをセットして、オスとメスを、うつしました。

たまごをかんさつすると、とうめいな、からのなかに、ちやいろのたまが、はいつていました。まいにち、ようすをみていると、そのたまごが、すこしずつ大きくなっていききました。そして、どんどん、かたちがか

わって、ヒルみたいになりました。ヒルみたいなあかちゃん、たまごのなかで、ぐるぐるまわって、そのうちたまごがねじれてやぶれ、中からでてきました。オスとメスがたまごをうんでから、二しゅうかんごでした。

そのあと、のこりのたまごも、すこしずつうまれてきました。うまれてきたあかちゃんは、オオトカゲみたい、くねくねおよいでいました。かわいかったです。



* 低学年部門 *

優秀賞

めだかについて

高岡市立戸出西部小学校 一年

中居^{なかい} 美結^{みゆ}

わたしのいえには、めだかがいます。四がつに、めだかがやってきました。しんせきのおじさんから、もらいました。あかいめだかを三びき、あおいめだかを

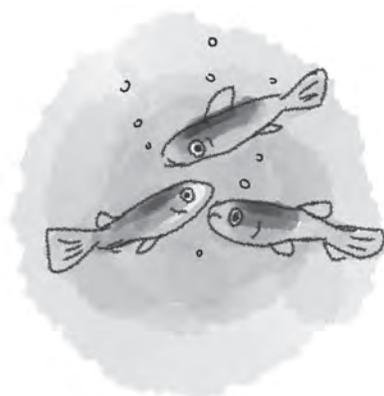
五ひきもらいました。いえにやってきてから、いつかで、たまごをうみました。いまでは、よんじゅういっぴきいます。とてもげんきに、そだっています。

あるひ、テレビのニュースで、しぜんのめだかが、すくなくなってきたことをしりました。わたしのいえのめだかは、とてもふえているのに、ふしぎでした。

しらべてみると、めだかは、ぜつめつきぐしゅになっっていました。そのりゆうは、たんぼや、ちいさなかわが、へっているからでした。わたしのいえのまわりにも、たんぼはありますが、すいろは、コンクリートで、できています。みずはきれいですが、とても、

ながれがはやいです。ながれがはやいと、めだかが、
いきでいけません。

みんなが、なかよくせいかつするには、バランスが、
むずかしいな、とおもいました。



低学年部門

佳作

つり

南砺市立利賀小学校 一年

谷^{たに} 日^ひ弥^び木^き

ぼくは、なつやすみに、かぞくで、にしまたがわに、あそびにいきました。とてもあつかったので、かわにはいると、つめたくて、きもちがよかったです。みずは、ゆっくり、ながれていました。ふかいところは、

むねぐらいあると、おとうさんがいていました。

ぼくとおにいちゃんは、つりをしました。ねらいは、ごりです。えさは、チーズカマボコです。みみずやあかむしのほうが、つれるけれど、チーズカマボコでもつれるそうです。

ごりは、ふかいところにいるので、とおくまでなげるのが、むずかしかったです。なかなかつれなくて、なんかいもなげました。やっと、さかながつれたときは、うれしかったです。

ぼくが二ひきつれて、おにいちゃんも二ひきつれました。つれたのは、ぜんぶ、ごりではありませんでした。おとうさんが、

「そのさかなは、たべられないから、にがそうね。」と、いったので、にがしてあげました。

ねらっていたさかなは、つれなかつたけれど、たの
しかったです。こんどいくときは、はたけのみみず
を、いっぱいかまえて、えさにします。こんどこそ、
ごりをつりたいです。



* 中学年部門 *

最優秀賞

自然との共生

砺波市立砺波北部小学校 四年

黒田^{くろだ} 唯心^{ゆみ}

学校へ行くときに、私の家の近くの川を、工事しているのを見つけました。川のはばが広がって、草が生えないように、川的那こや周りがコンクリートの川になっていました。

この川には、毎年、六月になるとホタルが来ていた

けど、もうホタルはこないと思いました。

なぜなら、ホタルが来る川のとくちょうは、水がきれいで、幼虫がさなぎになるための、やわらかい土と、昼にかくれるための岩や石が必要です。また、ホタル一匹が五百から千こくらの白いたまごを産むためのコケも必要です。成虫になれば、草や木の葉のかげで、光ったり、かくれたりします。工事をした川には、もう、ホタルが住める場所はありません。とても悲しい気持ちになりました。

お父さんに、川の工事のことを伝えると、「大雨になったとき、こうずいを防ぐために川を整えている。私たちの生活を守るために川を作り直しているんだよ。」と教えてくれました。私は、ホタルはどうなってしまうのだろうと思いました。

そこで、川や水の生き物の本を読んで調べてみると、「かんきょう生たいけい水路」について書いてありま

した。これは何かというと、川を整えながら、魚や水の中の生物、植物やこん虫なども守ることができ「自然との共生」を考えた水路のことです。

砺波市に、この水路で作られた川があることが分かったので、お父さんと調べに行きました。

川全体は、コンクリートで整えてあるけど、川の中には土や石がひいてありました。そく面はブロックでできていて、虫が、かくれたりできるような空どうがありました。川の中は、水草やコケが生え、ホタルのえさになるカワニナや、ゲンゴロウにた虫がいました。また、川の周りには、ハグロトンボがたくさん飛んでいました。私は、これらを見てうれしい気持ちになりました。

川の工事は、自然災害から私たちの生活を守ります。でも、昔からいた生物が住めないかん境になってしまいます。だから、人間だけが住みやすいかん境をつく

るのではなくて、生たいけい水路の川のように、虫や魚や鳥などの生き物も住みやすい場所を守り、工夫してつくっていくことが大切だと思いました。

来年の六月に、生たいけい水路で作られた川に、ホタルが来るのを楽しみに待とうと思います。



* 中学年部門 *

優秀賞

大切な水を守るためにできること

高岡市立高陵小学校 四年

小倉 おぐら 一晃 かずあき

ぼくは、魚つりが好きで、お父さんといっしょによく川や海に行きます。青空の色がうつりこんだ水面をながめながら、海のむこうにそびえる立山れんぼうを見てつりをするのは、とてもいい気分です。

ある時、お父さんといっしょに、小矢部川でつりを

していると、川のすみの方にペットボトルやゴミ、油がういていることがありました。ぼくは今まで、間ちがって、それを食べた魚をつつて食べてきたかもしれない。考えるとゾッとします。ぼくは、魚をつるのも食べるのも大好きなので、水中の生き物を守るためにも、水をよごさないようにしなければならぬと思いました。

川の水がきたなくなると、飲み水をきれいにするのもたいへんです。学校で、じょう水場の勉強をしたときには、水道局の人が来てくれて、じょう水場は、川などの水をろかして、安心して飲める水道水をつくる。ところだと学びました。今まで、じゃ口をひねって当たり前のように水を飲んでいましたが、飲み水のようにきれいな水をつくるためには、とてもくろうするところがわかりました。もし、きたない水を川に流すと、それは海にも流れていってしまい、住んでいる魚は死

んでしまいかもしれません。一度よごれてしまった水は、自ぜんの手だけで元にもどすことは、むずかしいそうです。魚がたくさん住める良いかんきょうも、よごすのはかんただけど、元にもどすには、たいへんなくろうが必要だと思ひます。川や海のほかに、畑で野菜を育てるのにも水が必要なので、水がきたなくなると、おいしい野菜を育てることができなくなりま

す。
こうして、川や海の水のことを考えると、水をきたなくすることは、ぼくたち人間が、生きることをむずかしくするのと同じことなんだと気づきました。きれいな水を守っていくために、まず、ぼくができることは、食べのこしの生ゴミや油を流さないようにしたり、つりにいったときにゴミがあればひろって帰ったりすることだと思ひます。できることからやっけていき、周りにもそのような動きが広がっていけば、きれいな川

や海になるはずで

す。
ぼくたちみんなが、よごした水をきれいな水にして、川か海にもどすことが、ぼくたち自身のためになるので、未来の水を守るためによく考え、行動していくことが大切だと思ひます。



* 中学年部門 *

優秀賞

私たちの生活とダムと環境問題

高岡市立高陵小学校 四年

菅野 すがの
有紗 ありさ

「ダムって何のためにあるの？」

その疑問を解消するために、夏休みに黒部ダムへ行ってきました。

調べてみると、ダムの役目は、大きく三つあることを知りました。一つ目は、大雨の時に下流の川があふ

れて町が洪水にならないように、上流のダムに水を貯めることです。二つ目は、ダムに貯められた水は浄化されて、きれいな水道水やトイレなどの生活用水として使用されており、雨不足でも断水しないようにすることです。三つ目は、水が落下する力で、電気を作る水力発電用の水として使用されます。水力発電は、電気を作るときに二酸化炭素が発生しないので、地球温暖化を防止することに役立っています。普段は、気にも留めない存在のダムが無ければ、大雨の度に、洪水が発生するかもしれない、毎日使う水や電気が無いかもしれないと思うと、ダムは、私たちの生活には欠かせることができない存在そんざいだということが分かりました。

でも、黒部ダムへ連れて行ってくれた祖父が、「ダムの底には、近くのキャンプ場や川で人がポイ捨てしたゴミが、たくさん溜まっているよ。そのゴミでダムに貯められた水が汚くなり、その汚い水が、川か

ら海へ流されて、魚や海藻が少なくなってしまう環境問題も起きているんだよ。ポイ捨てはいけないね。」
と言っていました。

ダムは、私たちの生活には欠かすことができない水や電気を作ってくれているけど、川や海の水を汚している可能性かのうがあることも知りました。水質汚染の原因は人間です。私一人ではこの問題を解決することは出来ませんが、何気ないポイ捨てが、このような水質汚染につながっていることをみんなに知ってもらい、ダムだけでなくて、川や海の近くでキャンプやバーベキューをしたときには、ゴミを放置せずに持ち帰ってほしいと思いました。私も気をつけます。

また、今回黒部ダムに行くまで、トロリーバスなどの乗り物も、二酸化炭素を出さないものばかりで、ダム周辺の自然環境を守るために、多くの工夫があることに気づきました。

観光産業にも大きく貢献している、黒部ダム周辺の自然と環境の保全が、富山県民の豊かな生活に直結していることを実感しました。



* 中学年部門 *

優秀賞

水を大切に使うこと

高岡市立高陵小学校 四年

谷口^{たぐち} いろは

私は、水と人間のくらしの関わりについて考えました。水は、私たちの生活に当たり前にあります。もしも水がなかったら、私の生活はどうなるのかを考えました。

まず、水がないと私たちは、のどがかわいてしまい

ます。人間の体は、半分い上が水でできているからです。

また、水がないと料理もできません。料理ができないと、ごはんが食べられず、おなかですいて死んでしまいます。

そして、水がないと、お風呂にも入れません。トイレもできません。そうになると、体がくさくなったり、街中がうんちでいっぱいになったりします。そうすると、伝せん病がはやります。

このように、水がないと命に関わることがたくさんあります。

でも、川や海の水を、そのまま使うことができます。私たちが、水を使えるようにするために浄水場で、川の水や海の水を消どくしてきれいにしてくれています。浄水場とそこで働く人たちがいないと、私たちが当たり前のように飲んだり使ったりしている水がなくな

なってしまう。

それでも、私たちは、すぐにその水を使うことができませぬ。なぜなら、水道かんがないと、きれいな水は、家にはとどきませぬ。水道かんを作るには、工事の人が作らないといけません。工事の人たちがいるから、私たちは、家にとどいた水を飲めます。

このように、私たちが飲んでる水は、いろいろな人が関わっています。私たちは、それを心がけて水を使わなければなりません。

そのためには私は、水を大切に使用したいと思います。たとえば、手を洗うときに水を出しっぱなしにしないことや、洗い物をふやさないことを意識したいと思っています。また、自分だけではなく、家族や友達にも教えていきたいです。

富山県は、大きな川が七つもあって、水ぶそくには、あまりなりません。でも、最近では雨がふらない時期が

あったり、もう暑がつづいたりしています。いつ富山県も水ぶそくになるか分かりませぬ。今のうちから水を大切にする生活を心がけたいです。



* 中学年部門 *

佳作

きれいな海を守るために

高岡市立高陵小学校 四年

亀遊きゆう
瑠依るい

「去年よりも魚が少ないし、ゴミだらけできたないね。」

と、今年はじめて氷見の海で泳いだときに、お母さんが素晴らしいました。

すな浜には、ペットボトルやストロー、ビニールぶ

くろ、小さいはっぼうスチロールなどの、たくさんのごみがおちっていて、波がくると、そのまま海の方へ流されていきました。

わたしも、こんなごみだらけの海で、あんまり泳ぎたくないあと感じました。

わたしは、いつから、どうして、海が汚くなってしまったのだろうと考えました。

海洋プラスチック問題をしっていますか？私たちが、生活のあらゆる場面でつかっているプラスチックは、捨てられて、ごみとなって海にたどりつきます。

ごみのほとんどは、ビニールや使い捨ての容器で、私たちがふだん、コンビニやスーパーでもらうものばかりです。

その量は、約一億五〇〇〇万トンといわれています。プラスチックの生産量は、五〇年前に比べると二〇倍にふえているのに、リサイクルされるのは一〇%ほ

どで、ほとんどがごみになります。プラスチックごみを、海の生き物が飲みこんで、何年も苦しんだり、命を落としたりして海の生物がへってきているそうです。

このままでは、三〇年後に魚の数よりも、ごみの数のほうがふえてしまうそうです。

また、捨てたごみをもやすときに、二さん化石がふえて、地球温暖化がすすむので、海水温が上がって、サンゴがたくさん死んでしまうと聞きました。

私は、百円ショップでたくさん小物を買います。百円だから、気に入らなければすてちゃえばいいやと思っていました。私のすてちゃえばいいやで、出たごみをもやすことで、サンゴをころしてしまっていると思うと、悲しい気持ちになりました。

エコバッグやゴミの分別は、めんどくさいし、紙ストローはきらいだし、百円ショップも好きだけど、私

でもできる小さなアクションで、未来の海を守ることができたら、がんばってみようと思います。そしてまわりのみんなにも、広げていけたらよいなと思いました。



* 中学年部門 *

佳作

きれいな水を守るには

射水市立歌の森小学校 四年

松本^{まつもと} 寿里^{じゅり}

私は、社会のじゅ業で、イタイイタイ病という病気が起こったことについて習いました。私は、この病気について、とてもきょうみを持ちました。富山県は、水がとてもきれいな所のはずなのに、どうしてこんな病気が起きたのか、ふしぎに思ったからです。

家に帰った後、じゅ業のことを母に話すと、「じゃあ、くわしく調べてみようか。」

と言ってくれ、イタイイタイ病資料館に行くことになりました。そこでは、病気についてのくわしい話や、病気になった人の苦しみの言葉が、記録されています。

私はその資料館で、病気の由来が、病気にかかった人が息をしたり、体を動かしたりするだけで、ほねが折れて「イタイイタイ」と言っていたからだということを知りました。また、病気のげんいんは、川の上流にある工場が、おせんされた水を、川の中に流したことで、そのおせんされた水を飲んだ人が、全身のほねのカルシウムがなくなると、ほねがもろくなる病気だったということが分かりました。

私は、その工場の会社がさいばんを起こされて、負けてたくさんのお金をしはらったと聞き、この工場は

なんで悪いことをしたのだろう、お金ですむ問題じゃない、工場のせきにん者は、もったきびしくばつを受ければ良いのに、と思いました。また工場は、「おせんとした水を、きれいにしてから川に流せば良かったのに」と、思いました。今では工場は、水をよごさないように気をつけているそうです。

以前、私は、パキスタンという国に住んでいました。そこでは、水はともきたなく、水道水は、とても飲めなかったので、飲む水は、ミネラルウォーターを買っていました。でも、さすがにシャワーまでは、きれいな水を使えなかったのです、きたない水がまわっていました。目や口に水が入るとあぶないので、かおをタオルでおおって、お母さんにあらってもらっていました。

パキスタンの水が、きたない理由を調べてみましたが、工場から出たきたない水が、そのまま飲み水にも

使う川に入ることがげんいんだったそうです。これはイタイイタイ病のげんいんと同じだと知って、私はおどろきました。水をきれいにするには、一人一人の水をきれいにするための努力が不可欠だと思いました。



* 中学年部門 *

佳作

海のゴミはりく地のゴミ

富山市立大久保小学校 四年

宮本 みやもと
愛梨 あいり

わたしは、海洋汚染について調べています。きっかけは、総合的な学習の時間に、海のゴミ問題について調べる中で、おどろいたことがたくさんあったからです。そこで、さらに海のことを調べたいと思いました。その中でも、二つの問題をしようかいたします。

まず、一つ目は、りく地から海にゴミがきているということでした。どのようなゴミが海に流れつくかという、プラスチックゴミ、ガラス、レジぶくろなどの日じよう生活から出るゴミが多いそうです。なぜ、日じよう生活から出るゴミが多いのかきもんに思いました。それで、自分なりに考えてみました。りく地でポイ捨てをする人がいて、そして、川にゴミが入って海へ流れつくからと考えました。

次に、二つ目は、ゴミのせいで海の生き物がたくさん死んでいるという問題です。わたしは、海の生き物の住むかんきょうがなくなってきたことが、心配です。

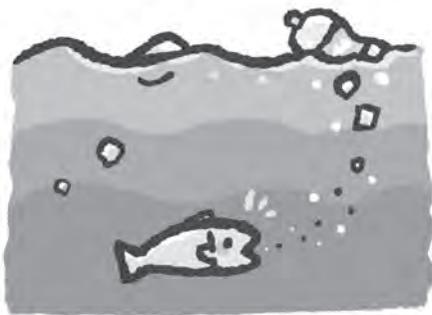
たとえば、マイクロプラスチックという小さいはへんを、魚が飲みこんでしまうと、体内で消化できずにのこってしまいます。人間が捨てたゴミのせいで、苦しんでいる魚がたくさんいるということを知りまし

た。

どうやったら、このような海洋汚染問題が、よくなっていくか、自分なりに考えてみました。海のゴミや砂はまにおちているゴミをみんなで協力して、拾ったりしてゴミをへらしていけばいいんじゃないかと思いました。けれど、海のゴミは拾っても、拾っても流れてきます。なので拾っても、数日後ぐらいにはまたゴミだらけになってしまいます。ということは、りく地のゴミをへらさないと、この問題はよくなるらないと考えました。

海をキレイにするには、海の近くに住んでいる人だけでなく、富山県に住んでいる人の協力が、すごく大切だと思います。りく地でポイ捨てをする人がいるから、海のゴミがふえているのです。今、目の前に落ちている教室のゴミも、拾って捨てることから始めようと思います。富山県のみんなが、ゴミを捨てるルー

ルなどを守って、ゴミをもっとへらしたいです。そして、みんながいい気もちで住める、かんきょうをつくりたいです。



* 中学年部門 *

佳作

水と人間のくらし

高岡市立高陵小学校 四年

室崎 栄太

蛇口を捻れば当たり前のように出てくる水。だけどその水は、「どこから出て来ているんだろう」と調べてみました。

森林には、二酸化炭素を吸いこんで、地球が暑くなるのをふせいだり、光合成により酸素を出す働きがあ

ります。しっかりと根をはって、土や、石をつかんでいるから、土が流れ出るのを防いだり、強い風を防いだりもします。またスポンジのように水を吸いこんで、地面に水を蓄える働きもあり、長い間雨がふらない渇水時には、少しずつ水を流してくれます。

もし、山に木がなかったら、雨水の半分以上が地面にながれてしまい、水を蓄えることができなくなってしまう。

ダムには、水を溜める役割があります。川の水が少なかったらダムに溜めた水を流して、川の水量をふやしたりします。

ダムは、何のためにあるのかは、りすいなどをして、田んぼに水をとどけたり、みんなが生活するための水を用意したりすることを言います。「もしもダムがなかったら。」を、ちょっと考えてみよう!! 台風がやって来て、大雨がふったときはどうなるかな? 川の水が

あふれて、洪水こうすいになってしまいます。

そして、もう一ひとつ、ダムを作る理由があります。それはみんながいつも使っている電気を作るための発電で、水力発電は、高いところからひくいところに水を落としてエネルギーを利用して発電を行います。高いところからひくい方へいきおいよく水を流し、その中に発電用のポンプ水車をせっちし、その水車の回転で発電機を動かすことによって、発電を行います。水力発電にもいろんなしゅるいがあって、大きくわけると、河川かせんや農業用水路などに発電水車をせっちする、流れこみ式や、ダムにためた水を放流することとで発電する貯水池方式、調整池式、揚水式ようすいしきがあります。ダムを利用する調整池式、貯水池式、揚水式ようすいしき発電量の増減ぞうげんの調節が短時間にできるため、電力の需要じゅよう状況に合わせて稼働させることができます。特に揚水式水力発電は貯水池を上流と下流に持ち、電力需要が少

ない時間に余剰よじょうとなった電力を使って、水を上流の貯水池に揚げ、電力需要が高くなる時間に下流の貯水池に放流・発電をすることで、電力供給きょうきゅうの過多かた、不足のいずれの場合にも調整を行うやくわりをはたしています。

くらしの中で当たり前あたりまえにある水は、ゆたかな自ぜんと、大きなかわりがあるんだなと思いました。



* 高学年部門 *

最優秀賞

地球の未来を変えるコンポスト

射水市立堀岡小学校 六年

棚田^{たなだ} 芽花^{めいか}

私は、お母さんといっしょにコンポストに取り組んでいます。きっかけは、おばあちゃんの一言でした。おばあちゃんの家で、一緒にご飯を作ったときに、おばあちゃんは、キャベツの芯やネギの根っこの部分をザルにためていました。不思議に思った私は、おばあ

ちゃんに聞きました。

「これ、どうするの?」

「コンポストに入れるんだよ。めいちゃんの家も生ゴミはお庭に埋めたらいいね。」

「ゴミを庭に埋める!? コンポストって!? はじめて聞いた「コンポスト」という言葉。とても気になってコンポストについて調べました。」

「コンポスト」とは、生ゴミや落ち葉などを、生物の働きによって、発酵分解させてできた栄養を多く含むたい肥のことです。び生物の力を借りて、生ゴミを土に戻す日本古来の方法で、最近はたい肥を作る容器のこと、たい肥を作る過程も「コンポスト」ということも多いと分かりました。ゴミが消えて土になるなんて、不思議で面白い。私は、お母さんと一緒にコンポストに挑戦することにしました。

コンポストのお世話は、思っていたよりも大変では

ありません。生ゴミをコンポストに入れて混ぜるだけで、とても簡単です。次の日にはなくなっている物もあるし、分解に時間がかかる物もあるし、肉や油だと生物が喜んで土がとても暖かくなるなど、たくさん発見があつて面白いです。

八週でコンポストに入れた生ごみの重さは約十八キログラム、コンポストの増加は約三キログラム、結果、生ゴミはマイナス十五キログラム！わが家のゴミはとても減り、ゴミ袋は「大」から「中」へと変わりました。

ゴミ問題は、近年、大きな問題となっています。家から出た生ゴミは、燃えるゴミとして出されますが、水分が多いので、燃やすのに時間もかかるし、石油を入れて無理矢理燃やしているので、お金もかかるし、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が多く出ます。ゴミは燃やせばなくなるわけではなく、灰が残ります。

その灰を最終処分場に埋めていますが、日本の最終処分場は二〇四〇年には満杯になると予想されています。ゴミを捨てることは当たり前で、その当たり前がずっと続くと思っている人がほとんどですが、このままゴミを出し続けると、二十年後には捨てる場所がなくなり、ゴミが捨てられない日がやってきます。

「家から出る生ゴミを家で処理できれば、環境問題は少しでも変わるのかもしれない。」

私がコンポストに取り組んでいる理由はこれです。わが家のゴミ事情は明らかに変わり、新しい目標もできました。このコンポストで作ったたい肥で、野菜を育てることです。私の挑戦はまだまだ続きます。コンポストを続けることで、環境問題が少しでも変わることを期待しています。

* 高学年部門 *

優秀賞

地球温暖化について学んだこと

氷見市立比美乃江小学校 六年

すぎもと
杉本 侑亮

地球温暖化について調べました。調べたきっかけは、現在の地球の状態を理解し、どうすれば地球温暖化を妨げるかを考えたかったからです。

まず、現状についてです。地球温暖化が原因となり、一八八〇年から二〇一二年までの約百三十年の間で、

地球の陸地と海上を合わせた世界の平均気温は、約〇・九度上昇しました。また、最近三〇年の各十年間は、一八五〇年以降の、どの十年間よりも高い気温を記録しています。そして、二〇〇九年の二酸化炭素濃度が三七〇PPmだったのに対して、二〇一八年はそれが四〇〇PPmになっています。九年間で、三〇PPmも増えたということになります。北海道では、気温が三〇度を超える日が、どんどん増えていることもわかりました。

このままの状態を変えずにいと、二十世紀末頃と比べて、二十一世紀末頃の世界平均気温は二・六〜四・八度も上昇すると言われています。今以上に厳しい対策を取っても、〇・三〜一・七度の上昇は避けられないとも言われています。また、このままの状態が続くと、平均海面水位は、約百年間で最大八二センチメートルも上昇する確率が高いです。

地球温暖化の原因としては、主に、車などから排出される二酸化炭素などの温室効果ガスが、かなり増えてきていることがあげられます。温室効果ガスが地上からの熱を吸収、再放射し、地球の気温が上昇していきます。他にも、電気の使いすぎや水の無駄遣いなどが原因としてあげられます。

このようなことが原因で、地球上では、多くの問題が起こりつつあります。氷河や氷床がとけて、生物の生息地が少なくなったり、渇水が起きたり、大雨のえいきょうで洪水や地すべりなどの大きな災害が起こるリスクが高まったりします。一人一人の小さな行動が、命に関わる大きな問題につながります。

このような問題を少なくしていくために、近年、世界全体で気温上昇を一度におさえる目標を設定したり、二国間クレジット制度を含めた市場メカニズムの活用をしたりすることなどが取り組まれています。自

分たちの環境や命を守るための大切なことが、世界全体で実施されているといえます。私たち国民も、温暖化防止対策を少しずつでもしていくことで、地球温暖化を防止することができると思います。今、私たちにできることはたくさんあります。節水に取り組んだり、車を使用する機会をできる限り減らしたり、節電に取り組んだりするなど、日常ですぐにできる対策を意識してするだけで、地球温暖化防止に大きくつながるのではないかと思います。

一人一人が今の深刻な地球の状態を理解し合い、少しずつ自分の行動や自分なりの対策につなげていくことが、地球温暖化防止にとって大切なことだと思いましたが、

* 高学年部門 *

優秀賞

大切な海を守るために

富山市立堀川小学校 五年

神宮字 じんぐうじ
柑菜 かんな

私は、この夏、海へ遊びに行きました。私は生き物も大好きなので、海の中に魚もいるのかと、とても楽しみにしていました。

数年ぶりの海はうれしかったし、楽しかったのですが、砂浜にはペットボトルや空き缶、ビニールぶくろ

がたくさん落ちていて、汚いなと思って少しいやでした。楽しかった思い出とは逆に、帰ってから心の中でずっと少しモヤモヤした気持ちが残っていました。

ある日、オーストラリアのシドニーの動物園に保護された小さなカメラが、六日間プラスチックをはいせつし続けたというニュースを目にしました。そこで私は、兄が、三年前に海洋プラスチックごみについて調べていたのを思い出したので、私自身でも調べてみることにしました。

私の大好きな海は、生物にかかせない淡水の供給源で、二酸化炭素を吸収、貯ぞうする働きがあります。だから、海はとても大切な存在であり、生物と切っても切り離せない存在です。

しかし、最近は、人間の都合でその海が汚染されています。特に、海洋プラスチックごみ問題は深刻化し、二〇五〇年には、魚より海洋ゴミの量が多くなると言

われています。海洋ごみの七から八割は街から発生します。雨がふると、路上のごみが川や水路に流出し、海に至るそうです。このプラスチックごみは世界に合計一億五千万トン以上で、そのうちの二から六万トンは日本から発生しています。さらに毎年八百万トンの量のごみが新たに流出していると推定されています。

私は、そのことを知り、とても怖くなりました。三十年後には、魚ではなくてゴミが泳いでいるのです。私には想像ができません。人間や生き物のための海をどうやって守ればよいのか、私は考えました。

今、エコバッグを使ったり、紙のストローに変えたりするなど、今世界中で行なわれています。私はプラスチックごみを減らせばいいと思います。でも、一人が気持ちを変えないと、ごみは減らないと思います。ごみだらけのお風呂に入れますか。ごみがたくさんういている海に遊びに行きたいですか。自分のこと

ではないから、なかなか考えられないのだと思います。例えば、みんなが行く水族館の水そう一つを、ゴミがたくさん泳いでいる水そうにして見てもらったり、街の中でもプラスチックを食べた魚の写真とかをいろいろなところにはったりすれば、少し身近に感じてもらえるのかなと思います。

ごみをポイ捨てしないなどの当たり前前で、大切な海を守れると思います。魚のために私たちのために、みんなで取り組まなければならないと思います。



* 高学年部門 *

佳作

おいしい水について考えたこと

南砺市立井波小学校 六年

磯邊 いそべ
悠花 ゆうか

富山県には、たくさんのおいしい水がわいています。そして、私の住むとなみ野の水は、売られるくらいにきれいでおいしい水です。そんな水で育てた野菜や米もおいしくて自まんです。

「富山の水はおいしい」ことを私は当たり前のように思っていました。しかし、母の話聞いて、同じ県

内でも水道水をおいしく飲めることがめぐまれていると知りました。

母は昔の新湊の出身で、その水道水は、おいしくないと聞いておどろきました。新湊は海沿いなので井戸を深くほっても、水には海水が混じります。この水を飲めるように処理すると、消毒臭なくなりました。のだと思います。となみ野を流れるきれいな庄川も、下流の新湊では、ごみ拾いが必要なほどだと聞き、悲しくなりました。同じ川なのに、見る場所によって川への想いも変わってしまいます。

もう一つ、水道水について不思議なことを聞きました。飼っていた金魚の水を替えるときに「カルキ」ぬきについてです。カルキというのは、水道水に含まれる消毒成分で、一晩置いておくと抜けます。そのカルキは、毎日使っている電気ポットによく付いています。母は、何度か転居する中で、そのカルキの付き方

が違うことに気付いたようです。新湊の一戸建てでは、五年ほどで、ふれるとザラザラしていました。富山市内のアパートでは、新品のものが約三年間で、チクチクになったそうです。東京都内の集合住宅では、一年間でトゲトゲして、さわれなくなっていました。アパートのような集合住宅では、屋上の貯水タンクに一度貯められるので、より強い消毒がされているのだろうと考えられます。一戸建てかアパートかによっても、蛇口から出るカルキ量が違うことが分かりました。飲んでも体に害がないのか、心配になりました。

私は、南砺市で育って十二年目になります。生まれたときに新しく買った電気ポットは、今でも、さらっときれいなままです。これは、南砺市の水道水にはほとんどカルキが入っていないということだと思えます。同じ年を重ねた電気ポットを見て安心しました。南砺市がほこらしく、もっと好きになりました。

私が毎日飲む水も、美しい環境の中でわいたものだと思うと、この当たり前がいつか失われるのではとそろしくなります。大切な水をなくさないために、私も自分のできることから始めたいと思います。むだづかい、やりっぱなしなど、いつも注意されていることが近い未来で自分のためになると気付きました。一人が生活に気を付けることで守れるものがあるので、

このおいしい水をずっと先の未来にも残せるように考えていきたいです。



* 高学年部門 *

佳作

私の大切な小川

富山大学教育学部附属小学校 五年

橘 たちばな
祐花 ゆうか

私は生き物が大好きです。二年生するとき、通学路でたくさん生き物がある小川を見つけました。その小川は、お寺の裏にあります。水の流れはゆるやかです。底には、細かい石や砂があつて、緑色の水草がたくさんあります。周りには、低い草がしげっています。

小川には、いろいろな生き物があります。小川に行つて最初に出会えるのはアメンボです。流れに流されると前に行つて、また流されて、を繰り返しています。また、体の色が黒いメダカにも会えます。水草の周りで、群れで泳いでいます。水が少ない所をよく見ると、ツチガエルがいます。黒い土にまぎれて、ひっそりと座っています。体の色が土の色に似ていて、体にイボがあるので、見つけにくいのですが、二から三匹が集まっています。運がよければしめった土の上に、体の大きなトノサマガエルがいます。鼻の先を空に向けて今にもジャンプしそうに座っています。石をめくると、紫色に近いサワガニがいます。出会えることが少ないので、見つけるとうれしくなります。川の上には、羽が黒くてヒラヒラと飛ぶハグロトンボや、速く飛ぶギンヤンマが飛んでいます。これらのトンボは、飛び方が対照的でおもしろいです。

メダカやトノサマガエルは、近年生息数が減っています。原因は、水質の悪化などの自然破壊、水路のコンクリートによる整備、外来種により食べられてしまうこと、と言われています。

では、なぜメダカやカエルは必要なのでしょう？カエルは、バッタやコオロギなどの昆虫を食べます。カエルがいなくなると昆虫が増えます。昆虫は畑の作物や草を食べるので、畑の作物に被害が出たり、草が無くなったりしてしまいます。アマガエルは、木や稲の葉の先にとまっていることが多いので、小川にはいませんが、稲にいる害虫を食べます。メダカは、小さなプランクトンを食べます。メダカがいなくなるとプランクトンが増えて、水中の酸素が少なくなります。

私は、「生物多様性」を学びました。様々な植物が虫が食べて、虫を鳥や小さな動物が食べて、鳥や小さな動物は大きな動物に食べられて、大きな動物たちは

死んだ後に土にかえり、土の小さな微生物たちに分解されて植物の栄養となります。これらの食物連鎖が行われて、自然界のバランスが保たれています。これらの連鎖には私たち人間も含まれています。

私は、美味しいご飯が大好きです。だから、水路が整備されて美味しいご飯を安定して食べられることは、とてもうれしいです。でも一方で、それらによって絶滅の危機を迎えている生き物がいます。

地球上の生き物たちと私たち人間が共存できる方法を考えていくことが、今後の私たちの課題だと思いません。



* 高学年部門 *

佳作

つばめが教えてくれたこと

高岡市立戸出西部小学校 五年

廣地ひろち 皓貴こうき

ぼくの住んでいるところは、たくさんのお田んぼや畑に囲まれた農村地帯です。毎年、春になるとたくさんのおつばめが元気に飛び回っています。その様子を見て、今年も元気に帰ってきてくれたなと嬉しくなります。それは、ぼくの家の車庫につばめの巣があるからです。

つばめたちが帰ってきてしばらくすると、ぼくの家
の車庫にあるつばめの巣に、つばめが出入りするよう
になりました。巣の修理をしているのか、どこからと
もなく、土やわらを運んでいました。そして、しばら
くすると、つばめが巣の中でじっとするようになりま
した。ぼくは、今までの経験から、つばめがたまごを
産み、温めているのだと思いました。ああ、今年もか
わいいつばめのひなが見られるな。今年は何匹生まれ
るのだろう。そう思いながら、毎日、つばめの巣を観
察していました。

ところが、ある日、車庫の中につばめではなく、ス
ズメが入っていったのです。車庫では、巣を守るため
に、つばめが、スズメを一生けん命に追い払っていま
した。何度も何度も、つばめがスズメを追い払ってい
ました。ぼくは、毎日、つばめを応援していました。
ある日の朝、ぼくは巣からつばめがいなくなってい

ることに気づきました。そして、つばめの巣の下につばめが運んできたことがないような、長い雑草と、つばめのたまごが落ちていたのです。ぼくはとても悲しい気持ちになりました。なぜ、こんなことをするのだろうと、スズメに対して、怒りがこみ上げてきました。そして、お父さんに報告をしました。

すると、お父さんは、自然界ではよくあることだと教えてくれました。そして、スズメがつばめの巣を横取りすることについて調べてみると、最近の住宅の空き下には、スズメの巣を作るようなすき間がなくなってきたのが原因で、十年前くらいからふえているということが分かりました。家のつくりが変わることだけでも、自然界の生き物にえいきょうしていると知り、とてもおどろきました。

今回、つばめのひなを見ることはできませんでした。が、自然界のきびしさを知ることができました。そし

て、人間が生き物に与えるえいきょうについて考えることができました。

ぼくは、自然や生き物が大好きです。これから先もたくさんの自然に囲まれ、大好きな生き物といっしょにくらしていけるよう、自然を大切にしていきたいと思えます。



* 高学年部門 *

佳作

拾いきれないゴミ

富山市立朝日小学校 六年

山下^{やました}
円嘉^{まどか}

私は、去年の自由研究で、川と海の小石について調べました。そこで、川と海が場所によって、ゴミの量がちがうことに気がきました。また、海岸清掃に参加して、マイクロプラスチックのゴミが、大量にあったことを初めて知りました。

小石拾いで、神通川の上流・中流・下流と海岸、宮崎海岸に行きました。宮崎海岸は、石がゴロゴロといっぱいあったけど、ゴミは、あまり落ちていませんでした。それに比べて、岩瀬浜と八重津浜には、いろんなゴミやマイクロプラスチックが、大量に落ちていました。同じ富山県の海なのに、ゴミがある海岸と無い海岸に違いがあることが分かりました。八重津浜で、マイクロプラスチックの調査をした結果、一番多かったのは、農業用肥料カプセルで、次に、発泡スチロール片、硬質プラスチック破片（硬いプラスチック製品のかげら）、レジンペレット（プラスチック製品の間材料）、へら状（人工芝）破片と続きました。枯れた草木のかげらに混じって、海岸にたまっていて、他のゴミみたいに、拾いきれる量ではありませんでした。でも、神通川で、小石を集めていたときには、これらのゴミには気が付きませんでした。田んぼの周りに

ある小さい用水路には、空きかんやペットボトル、ビールぶくろが落ちていることがよくあります。これらのゴミが、川から海に流れているにちがいありません。

海岸のごみの量に、違いがなぜあるのか考えました。宮崎海岸のガイドのおじさんは、ゴミがあっても大きな波が全部さらっていくと言っていました。それ以外にも、理由があると思います。地図を見ると、宮崎海岸に続く川はきよりが短く、ほとんど周りは、山のところを通っているようです。それに比べ、神通川はきよりが長く、富山平野を流れていて、田んぼや人間の生活に、影響されやすいのかもしれない。だから、ゴミの量にちがいがあるのだと思います。人が多いとゴミが増えるけど、それは、だれかが捨てたのかもしれないし、農薬用肥料カプセルのように、知らずにゴミとなってしまった物があるのだと思います。

海にゴミが流れると、海がよごれるだけではなく、生物が生きていけなくなったり、人間の体内にも取り込まれて、健康に悪い影響があることを、インターネットで調べました。でも、プラスチック製品は、私の身の回りにもたくさんあって便利です。そこで、海に流れるゴミを減らすには、生活する人々の意識が大事です。ゴミは、使った人の責任でちゃんと捨てたり、4R（リユース・リデュース・リサイクル・リフューズ）を心がけたり、プラスチックの使用量を減らしたりする工夫が大切だと思います。

川や海の自然を守るために、これからも、クリーン作戦などの清掃活動に参加したり、ゴミを減らす工夫を続けていきたいです。

◆募集要項

★応募対象

富山県内の小学生

★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病について調べたこと、考えたこと
 - ② 清流を守ってきた人々との活動
 - ③ 水と人間の暮らしの関わり
 - ④ 住んでいる地域の環境、自然について考えたこと
 - ⑤ 生き物とのふれあい体験
 - ⑥ 山や川・海とのふれあい体験
 - ⑦ 水や食の安全について考えたこと
 - ⑧ 学校・学級で取り組んでいる環境問題
 - ⑨ 個人・地域で取り組んでいる環境問題
- ※ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。
- (例えば、海洋汚染・地球温暖化・大気汚染・自然災害・健康被害などについて調べたこと考えたこと)

★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下のとおりです。
小学校1・2年生 400字詰原稿用紙 本文 600字以内
小学校3・4年生 400字詰原稿用紙 本文1000字以内
小学校5・6年生 400字詰原稿用紙 本文1200字以内
- ② 一人1作品とします。
- ③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学

校名、学年、氏名(ふりがな)を明記し、本文は4行目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチキスでとめてください。

- ④ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限りません。
- ⑤ 応募者の情報及び応募作品を主催者において自由に発表することについては承諾していただきます。
- ⑥ 応募作品は、郵送でお願いします。個人でも応募できます。学校・学級でまとめて応募する場合は、応募者名の一覧(学年、題名記載)と担任または担当者のお名前を書いたものを同封してください。
- ⑦ 応募作品の返却は原則行いません。

★応募期間

応募期間は2022年7月1日～2020年10月20日とします

★賞の種類

- A) 清流環境歴史賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
 - B) 清流環境体験賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
 - C) 清流環境科学賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
 - D) 清流環境奨励賞(がんばって応募してくれた学校・学級)
- ※応募する賞を明記する必要はありません。審査委員会で適切に判断します。

★表彰

- ① 小学校1・2年生の部(低学年)、3・4年生の部(中学年)、5・6年生の部(高学年)の歴史賞、体験賞、科学賞毎に、最優秀賞、優秀賞、佳作を選考します。
- ② 最優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞(図書カード5千円分)を贈ります。
- ③ 優秀賞受賞者には表彰状と副賞(図書カード3千円分)を贈ります。
- ④ 佳作受賞者には表彰状と副賞(図書カード1千円分)を贈ります。
- ⑤ 清流環境奨励賞を受賞の学校には表彰状と盾、副賞(図書カード1万円分)、学級賞には表彰状と副賞(図書カード3千円分)を贈ります。
- ⑥ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級へハイタイイタイ病に関係した方々(語り部等)を派遣して公害・環境教育のお役に立ちたいと思います。
- ⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。

★その他

- ① 作品は清流環境作文コンクール審査委員会で選考いたします。
- ② 選考結果は2023年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2023年2月を予定しています。
- ③ 個人情報取り扱い
応募の際に提供いただく個人情報は、以下に掲げる事項

に必要な範囲で使用します。

- ・ 本コンクールの運営(外部審査員への提供を含む)
 - ・ 受賞作品の発表
 - ・ 当財団が行う事業全般についての連絡
- ④ 応募者は、応募いただいた作文が受賞した場合に、当財団が主催、共催若しくは後援する事業、当財団のホームページ及び当財団が適当と考える場所(富山県立ハイタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等)において、当該応募者の氏名・所属・受賞作文・受賞した賞の種類を公表すること、及び当該受賞作文を他で公表する場合には、「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けた」旨付記し、当該応募作文が掲載された出版物、ホームページ等写し等を当財団宛に提出をいただくことについて、応募をもってご承諾をいただくこととします。
 - ⑤ 受賞作品はホームページからダウンロードできます。
 - ⑥ 本コンクールの運営の内容、応募者の属性及び応募いただいた作文(氏名、所属等特定の応募者を識別することができる情報は含みません)について、大学、その他、当財団が適当と認めた機関における研究及び教育に使用されることがあります。研究・教育利用規約については、下記までお問い合わせください。
 - ⑦ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、当財団のホームページその他の場所において速やかに発表いたします。
 - ⑧ 入賞作品は、文集掲載時に全体のバランスを考え、表記や表現を一部改める場合があります。

2022 年度
第 5 回 清流環境作文コンクール
受賞作品集

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒939-2723 富山市婦中町萩島 684
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2023 年 2 月 25 日

